



みやぎ生活協同組合

CSR Report

Corporate Social Responsibility Report 2016

2015年度社会・事業・環境活動についての報告書



食品安全・安心



メンバー活動



事業活動



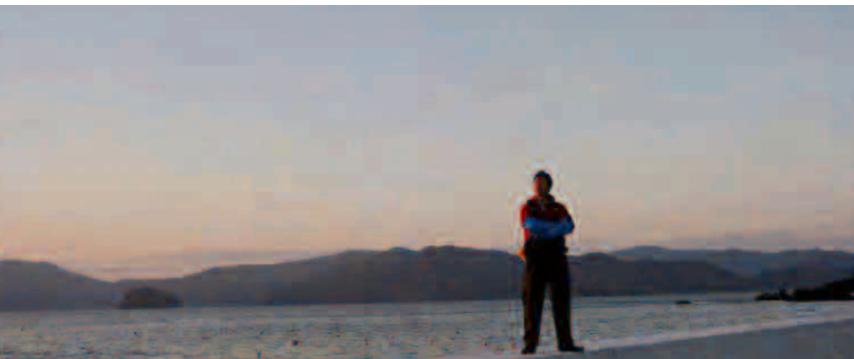
社会貢献活動



環境活動

COOP
MIYAGI

CONTENTS



01 ご挨拶

02 みやぎ生協とは、コーパ東北とは

04 〈東日本大震災〉

協同の力で 希望の明日へ 震災復興と社会貢献



第1章

食品の安全を確保する仕組み

食品の安全・安心

14 食品の安全を確保する仕組み

16 顔とくらしの見える産直「めぐみ野」



第2章

メンバー(組合員)活動

20 メンバー(組合員)活動

21 食の活動と子育て支援

22 こ～ぶくらしの助け合いの会

23 平和について考える活動



第3章

事業活動

24 店舗

26 共同購入・生産部

27 インターネット・サービス事業

28 こーぶ福祉会・学校部

29 コンプライアンスの徹底・広報活動



第4章

社会貢献活動

30 くらしと家計の相談室

31 コープフードバンク

32 福祉団体・施設への支援

33 国際社会への協力



第5章

環境活動

34 理念・方針

35 低炭素社会・再生可能エネルギー

36 廃棄物の削減・再資源化

37 メンバーの環境活動

38 商品事業における環境配慮

39 外部環境監査、内部環境監査

40 みやぎ生協の環境活動

東日本大震災から満5年を迎えました。

**ご支援を頂いた皆様及び、復興に携わる
皆様に深く感謝を申し上げます。**



みやぎ生活協同組合 理事長

宮本 弘

この5年間、みやぎ生協では被災された方々に寄り添う活動に継続して取り組んでまいりました。様々な活動への参加者は延べ10万人を超え、孤立防止や地域のコミュニティづくりにつながっています。また、震災を忘れず、風化させないために開設した震災学習・資料室への入館者数は、開設以来5,000人を越えました。

2015年11月には、震災後の宮城県の食産業復興を応援する「食のみやぎ復興ネットワーク」の活動をさらに発展させ、東北の地域経済の活性化を目指す新ブランド「古今東北」を立ち上げました。宮城県のみならず、東北の食資源を活用した商品を開発して全国に発信し、豊かな地域づくりと継続的な被災地復興へとつなげていきます。

原子力発電所の再稼動が進みつつありますが、原発に頼らないエネルギー政策を推進するために、再生可能エネルギーの普及拡大に努めています。出資参画した木質バイオマス発電事業や風力発電事業は今年度の稼動を予定しています。

2015年度、みやぎ生協のメンバー（組合員）数は70万人を超える、県内世帯加入率は72.9%となりました。私たちは、設立の礎となった創設者たちの伝統を受け継ぎ、協同組合の理念のもとに、メンバーのくらしを守り、地域社会からの信頼に応えられるよう、役職員一人ひとりが社会・事業・環境活動を推進してまいります。

最後に、この「2016年度CSR報告書」は、2015年度にみやぎ生協が取り組んだ社会的責任を負うべき課題や、東日本大震災の復興支援に関する取り組みについてまとめています。

是非ご一読いただき、みやぎ生協の活動へのご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

みやぎ生協とは

生活協同組合とは

協同組合は、メンバー（組合員）の共通の願いやニーズを満たすためのメンバーの助け合い（相互扶助）の組織です。19世紀の半ば、イギリスの労働者が自分たちのくらしを守るために作った「ロッティデール公正先駆者組合」が協同組合の始まり。現在、日本では2,050万人を超える方が生協の組合員です。

民主的な運営

メンバーの中から選出された総代による「総代会」で、毎年の方針などが決定されます。日常的には総代会で選出された理事（会）や、その負託を受けた常勤理事会が、総代会の決定に基づき事業を執行します。また、監事が理事（会）の業務執行を監査するなど、生協の民主的な運営を確かなものにするために多様な仕組みを設けています。

1982年に創立

1982年、宮城県学校生協（1952年設立）と宮城県民生協（1970年設立）が合併して現在のみやぎ生協が誕生しました。当時は大型生協同士の合併ということで全国的にも注目されました。



2生協の合併調印式

供給高（売上高）

1,050億77百万円

前年比102.4%／店舗742億円、共同購入287億円、サービス18億円

出資金（資本金）

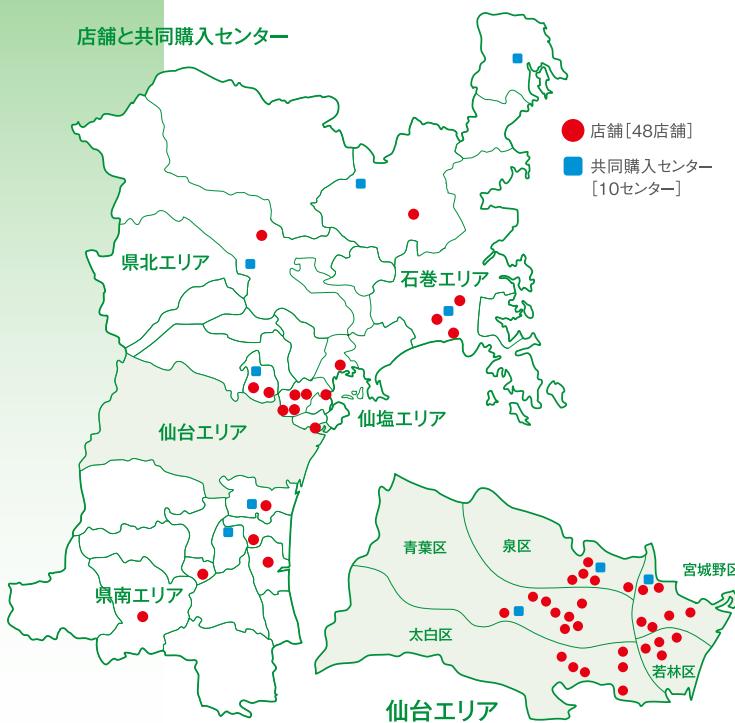
255億24百万円

職員数

6,947人

レギュラー職員937人、エリア職員253人、嘱託職員392人、パートナー職員3,934人、アルバイト職員1,431人
※関連団体への出向者含む

店舗と共同購入センター



主な事業

生鮮食品、食品、日用雑貨、衣料品などの供給事業、サービス事業、受託共済事業、生活相談・家計再生支援貸付事業

店舗48店舗 共同購入10センター

生産部

ミートセンター、フィッシュセンター、豆腐揚げ工場

サービス・保障事業

サービスセンター、住まいのセンター、ブリエ案内センター、共済センター

エネルギー事業部(灯油・ガス)

子会社

株宮城県学校用品協会、株コープトラベル東北、株コープ総合サービス、
株コープエステート、株スクラムファイブ、(株)コープ松島、(株)東北協同事業開発

主な加盟団体

日本生活協同組合連合会、宮城県生活協同組合連合会、
生活協同組合連合会コープ東北サンネット事業連合

◆みやぎ生協のHPはこちら <http://www.miyagi.coop>

東北6県の生協との連帯 コープ東北サンネット事業連合

事業活動と取り組み

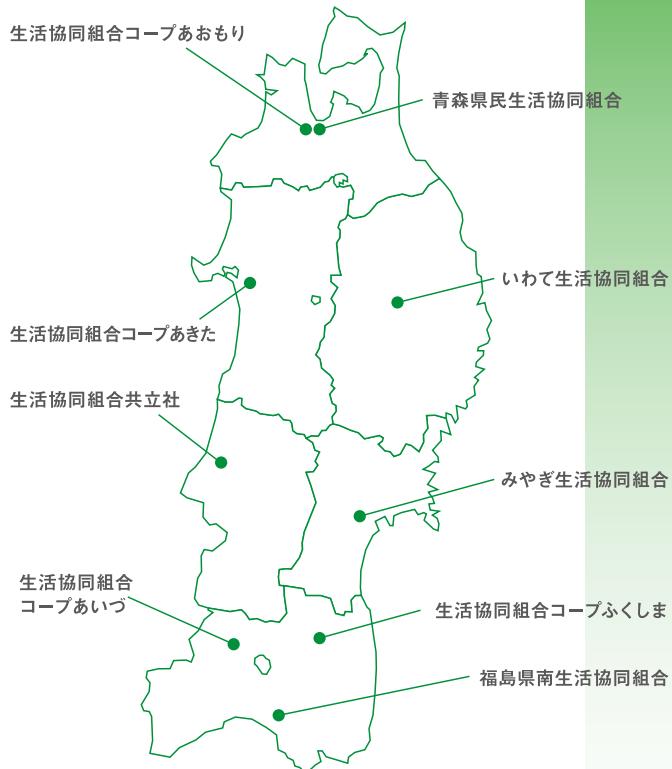
コープ東北は、東北の生協が商品仕入れを統一化、共同で行うことにより、厳しい競争環境の中でも、それぞれの地域で事業経営力の強化を図ることを主な目的としています。現在、店舗事業、共同購入事業、食品の安全・物流・システムの分野で統一・共同が進んでいます。



1995年2月23日の創立総会の様子

設立から今日まで

1990年6月、いわて生協・生協共立社・みやぎ生協が、今後の事業連帯のあり方について話し合いを開始し、1995年5月、コープ東北サンネット事業連合を設立しました。その後、複数の生協が加盟し、会員数は6県9生協に広がりました。東北6県の生協が連帯することにより、各会員生協の収益改善に大きく貢献しています。



2015年度決算概要

2015年度の加盟生協合計供給高は2,370億円、合計組合員数は約173万人となっています。また、コープ東北が取り扱う商品の供給高は1,105億円(前年比110.8%)になりました。

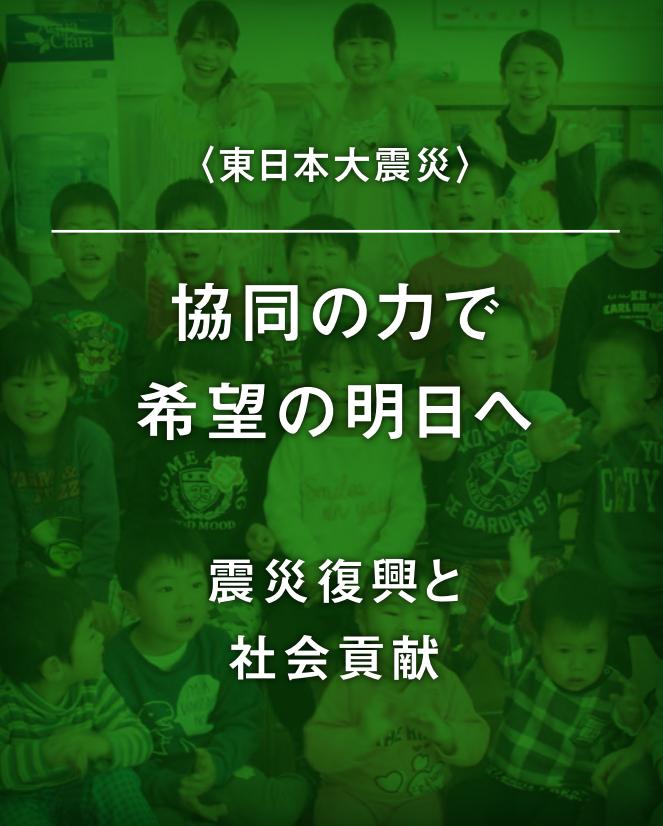


◆コープ東北のHPはこちら <http://www.tohoku.coop/>

〈東日本大震災〉

協同の力で 希望の明日へ

震災復興と
社会貢献



1

被災された方々を支えて—— ボランティアセンター

被災された方々のくらしを応援するため、2011年5月から県内4ヶ所(県北、石巻、仙南、仙塩)にボランティアセンターを設置しました。全国の生協や、社会福祉協議会、医療機関、NPO、お取引先様企業など多くの団体と連携しながら、コミュニティづくり支援のボランティア活動を継続しています。

【活動参加者10万人突破】

みやぎ生協は、東日本大震災直後の2011年5月から被災された方々に寄り添う活動を続けてきました。ふれあい喫茶、生活再建に関する声を聴く活動、募金を呼びかける活動、被災地訪問、落語やコンサートなどの文化企画など多岐に渡ります。そうした活動へ、これまで延べ10万人を超える方が参加しています。活動回数は3,000回を超え、延べ2万3,000人を超える方々がボランティアとして活動しました。

【ふれあい喫茶】

仮設住宅集会所や店舗・メンバー集会室など県内47ヶ所で月に各1~4回程度、一緒にお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむ活動に取り組みました。「今でも、続けて来てくれることがうれしい」「たわいのない話を笑顔で聴いてくれる人がいることがうれしい」「ここで転居先のご近所さんと知り合いになった」など、孤立化防止や地域のコミュニティづくりの場として役割を發揮しました。

【行政書士無料相談会】

宮城県行政書士会と連携した行政書士無料相談会を定期開催4店舗のほか、ふれあい喫茶で45回開催しました。ミニ学習会やチラシ配布などで気軽に相談できる会であることを伝え、延べ77人が相談に訪れました。

【手作り商品カタログの作成】

生きがいやコミュニティづくり、生活再建のために手作り品の製作に取り組む方々を紹介し、商品購入を呼びかける「新“復興応援”手作り商品カタログ」を、NPO法人「応援のしっぽ」と協同で2回発行しました。オーダーメイドの受け付けを開始し、Vol.4では27団体70品目、Vol.5では28団体73品目を掲載しました。



新“復興応援”手作り商品カタログVol.5

◆復興支援に関する詳細は[こちらからご覧になれます。](http://www.miagi.coop/support/shien/)<http://www.miagi.coop/support/shien/>



2

1.気仙沼市大崎山仮設住宅でのふれあい喫茶 2.手作り商品販売や募金活動をした「3.11を忘れない取り組み」(西多賀店・仙台西エリア合同) 3.落語公演後の出演者を交えたお茶会(気仙沼公園仮設住宅)



3

【新たな活動参加の呼びかけ・ センターへの支援】

「ふれあい喫茶体験会」や「ボランティア学習会」を開催したり、ボランティア募集チラシを配布したりして活動への参加を呼びかけました。また、ボランティアセンターセンターの交流会を10回開催し、296人が参加しました。これまでの活動の成果や悩みについて交流して、心のケアや今後の活動を考える時間となりました。

【「被災者支援から、地域のみんなで まちづくり」交流会】

東日本大震災発災直後、仮設住宅の集会所などで開催してきた「ふれあい喫茶」は、2,000回を超える、たくさんのつながりが生まれました。そのつながりを生かして、地域のみんなが安心して暮らせるまちづくりのために私たちができるることを考えため、交流会を開催しました。基調講演に早稲田大学の加瀬裕子さんを招き、コープこうべの高田忠良さん、YES工房の後藤とく子さん、ボランティア3人には活動報告をして頂きました。交流会には全国の生協の役職員、メンバー189人が参加し、「コミュニティを大切にする活動を継続します」など、たくさんの心強い声が寄せられました。



グループ交流の様子



基調講演 加瀬裕子さん

【被災地訪問企画】

宮城県内の被災地域を自分の目で確かめ、今後の支援や防災について考える企画を14回実施し、450人が参加しました。また、福島県の沿岸部や果物の産地を訪問して現状を学ぶ企画を2回実施し、89人が参加しました。訪問後は、こ～ぷのつどいなどで現状を伝え、支援を呼びかけました。



南三陸町の被災建物内で当時の話を聞き、減災や命の大切さを学ぶ貴重な体験になりました。

【被災者支援落語公演】

震災後、毎年実施している落語公演。5年目の今年は石巻市と気仙沼市の計4ヶ所の公演に、223人が参加しました。出演者も交えたお茶会では、参加者同士で会話に花を咲かせました。

【3.11を忘れない取り組み】

「大震災から5年～3.11を忘れない取り組み」として、手作り商品の販売や購入、ローリングストックの紹介や備蓄に便利な商品の展示・試食、ボランティア参加の呼びかけ、「つながろう COOPアクションくらし応援募金活動」などを全てのエリアで行いました。募金はメンバーからの募金と合わせ、総額1,556,138円が寄せられました。



地域産業・生産者への復興支援

古今東北

震災復興と地域振興の新ブランド

東北の生協として、震災復興そして地域振興の役割を果していくために、新ブランド「古今東北」を立ち上げました。東北の食の「これまで」と「これから」を紹介するブランドです。「古今東北」がお届けするのは、東北6県の彼方あちらこちら方から集めた選りすぐりの食材や加工品です。地元で愛されてきた伝統的な食文化を再発見し、多彩な食文化が出会うことで生まれる新たな食の楽しみを提案していきます。そして、東北地方の魅力を日本全国に向けて、いざれは世界の国々に向けて発信していきます。ロゴマークは、安心・安全で優れた商品であることをお伝えするために、確実な保証を意味する「太鼓判」をモチーフにしました。



【(株)東北協同事業開発】

みやぎ生協が出資する子会社です。2015年4月、「食のみやぎ復興ネットワーク」の思いと事業を継承し、東北の産業振興と地場産品の販路拡大のために設立しました。宮城はもちろん、東北地方の食資源を活用した古今東北ブランド商品の開発と全国への発信を通じて、豊かな地域づくりと継続的な被災地復興へつなげます。

商品紹介

【古今東北 宮城県亘理産つるんと亘理そば】

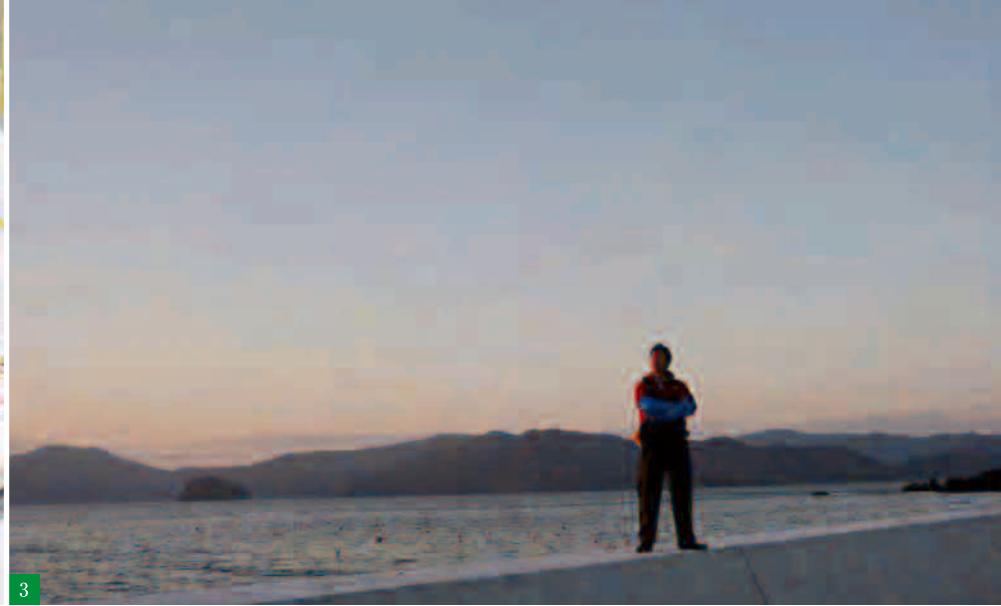
津波被害を受けた亘理地区で蕎麦栽培に取り組む生産者を応援する「わたりのそばプロジェクト」。収穫された蕎麦を、地元の製麺メーカーが喉ごしの良い乾麺・生麺に仕立てました。



【古今東北 石巻十三浜産しゃきしゃき湯通し 塩蔵わかめ】

浜の復活を目指す若い漁師たちのグループとコラボレーションした商品。荒波にもまれて育った肉厚のわかめは、鮮やかな色としゃきしゃきした食感が魅力です。





1.2015年11月17日 生産者を交えた古今東北記者発表会 2.幸町店でのお披露目 3.石巻市十三浜フィッシャーマンジャパン(わかめ生産者)

【古今東北商品のラインナップ】

古今東北商品は現在52アイテム(2016年5月現在)。東北の震災復興と地域振興に賛同する人々の思い、そして時を超えて親しまれるおいしさを伝えています。食のみやぎ復興ネットワークの取り組みから生まれた商品、被災した産地の復興を応援する商品、東北産食材のおいしさを発信する商品の開発と販売を通じて、東北地方を応援しています。



宮城県南三陸星農場産
しゃきっと小松菜



福島県川内村産香りレタスミックス(ハーブ入り)



三陸産じっくり熟成さば味噌煮



岩手県産こりこり若鶏ハラミ味付け



岩手県産ぶるんと食べる牛乳寒天



宮城県産
菜の花はちみつ飴と仲間たち



宮城県岩沼産なたね使用
菜の花オイルのドレッシング



岩手県盛岡産
赤武の
とろんと純米酒

食のみやぎ復興ネットワークとは?

【古今東北 岩手県軽米町産 生搾りエゴマ油】

岩手県軽米町で収穫されたエゴマを昔ながらの「生搾り」で仕上げました。加温しない圧搾法ならではのまろやかな風味を楽しめます。



エゴマの穂



東日本大震災で多大な被害を受けた宮城県内の農業・漁業関係者や食品関連産業者が互いに励まし合いながら、地域の産業復興の一翼を担うことを目的として、2011年7月に結成しました。震災直後から、被災した生産者への作業支援ボランティア活動、支援金や支援物資の仲介などに取り組んでいます。現在は主に商品づくりプロジェクト活動を通じた地域支援で、生産者、加工業者、流通業者が協力して宮城県内の食材や加工設備などの地域資源を活用した商品開発と利用推奨をしています。参加団体は242団体となりました。





1



2

事業を通した復興支援

店舗での復興支援

【移動店舗 せいきょう便】

移動店舗「せいきょう便」は、東日本大震災で近隣小売店が閉店したり、また近隣に小売店がない仮設住宅へ入居したりして買い物に困っている方への商品供給を目的として始めました。2011年8月5日から1号車、2012年3月21日からは2号車を配置し、震災被害が大きい石巻市と東松島市の仮設住宅・旧アイトピア店（津波で閉店）地区・気仙沼市・南三陸町で営業しています。生鮮品から雑貨品の生活必需品を中心に約600種類を品揃えし、「せいきょう便の歌」を流しながら週5日営業しています。

【東北元気価格】

東北の4生協（いわて生協、生協共立社、みやぎ生協、コープふくしま）の組合員の暮らしを継続的にサポートするために、2013年度よりスタートしました。2015年度も増税後の組合員の家計を応援するため、通常価格より10～30%値下げした商品を加工肉、ディリー、加工食品、生活関連の各コーナーで約3,200品目展開しました。対象商品は2ヶ月サイクルで見直し、季節ごとに利用頻度の高い商品を選定しています。



◆「ふれあい便」の配達エリアに関する詳細は[こちらからご覧になれます。](http://www.miyanig.coop/support/fureaibin/)

【買い物代行サービス こ～ぶふれあい便】

「こ～ぶふれあい便」は週2回、店舗で扱っている商品を自宅までお届けする買い物代行サービスです。震災前は高齢者や身体の不自由な方などを対象としていましたが、震災後には被災地域を中心に買い物の不便を感じている方への支援策として、沿岸地域にも対応しています。子育て・妊婦の方・家族の介護など買い物代行のニーズは多様化しており、「こ～ぶふれあい便」の良さ・便利さをお知らせして利用者の拡大を進めています。さらに高齢者の「安否確認」で県内各市町村と連携し、「高齢者見守り活動」として推進しています。「こ～ぶふれあい便」の対象店舗は、2015年度から鶴ヶ谷店が加わり、以下の16店舗となりました。

「ふれあい便」サービス実施店舗

西多賀店、黒松店、桜ヶ丘店、富沢店、幸町店、国見ヶ丘店、六丁の目店、柳生店、八木山店、明石台店、鶴ヶ谷店、亘理店、塩釜杉の入店、愛子店、名取西店、蛇田店

※配達エリアはお店によって異なります。



ふれあい便スタッフ



3



4

1.移動店舗 せいきょう便(石巻) 2.せいきょう便でお買い物(石巻) 3.共同購入で復興支援 4.共同購入イベントカー(石巻)

共同購入の復興支援サービス

【復興支援サービス】

東日本大震災で被災した方々を対象に、個人宅配の配達手数料を100円で利用できる「復興支援サービス」。2015年度も2,533人の新たな申し込みを受け付け、13,590人が利用しています。サービスの終了期間を「復興が実現するまで」に延長し、多くのメンバーに喜んで頂いています。今後も支援を継続し、協同組合としての役割をさらに発揮していきます。

【はん復興支援ポイント】

地域コミュニティ形成に貢献するため、災害公営住宅または仮設住宅にお住いのメンバーを対象に「はん」への加入と利用をお勧めしています。「はん」への加入特典として、2016年1月18日より「はん復興支援ポイント(コーポポイント5,000ポイントの付与)」を導入し、地域のつながり作りのために推進しています。

【農産品応援ボックス】

2011年6月からスタートした「がんばろう ふくしま!農産品応援ボックス」「果物応援ボックス」は、2015年度までの5年間で20万点ご利用頂きました。組合員から寄せられた産地への応



「がんばろうふくしま!農産品応援ボックス」生産者のみなさん

援メッセージを生産者へ渡し、大変喜ばれています。また生産者から「組合員さんへ感謝の気持ちを形にしたい」との提案があり、7月1週に500円(通常価格650円)の感謝価格でご案内したところ、1週間で3,630点(通常週の5倍)と多くの利用がありました。今後も継続していきます。

【共同購入ステーション】

共同購入で注文した商品を直接受け取りに来る「受取はん」として、メンバーが無料で利用できる共同購入ステーションは、石巻の生協文化会館アイトピア、共同購入石巻センター、蛇田店、渡波店、東松島市新東名集会所、共同購入気仙沼センターの6ヶ所にあり、369人のメンバーに登録頂いています。ステーションを利用しているメンバーは、職員との会話や近所の方とのふれあいを楽しみに足を運んでくださっています。



【イベントカー】

「安全・安心」のみやぎ生協として「COOPママのサポートクッキング」という食育活動を行い、イベントカーを活用しています。ママとお子様向けの食育学習、高齢者向けの食育学習、試食会などを通し、生協の良さを広めていきます。





1



2

サービス事業による支援

【宅配水無償提供】

アカアクララみやぎ生協は、震災直後から被害にあった地域へウォーターサーバーを設置し、アカアクララ水の無償支援を行っています。2015年度は牡鹿地区の保育所、「めぐみ野」にゆかりのある志津川漁協へ支援ボトル200本を提供しました。



牡鹿保育所

【福島の子ども保養プロジェクト】

福島の子どもたちに外でおもいっきり遊んで欲しい…。コープトラベルは「福島の子ども保養プロジェクト」(通称コヨット)運営のお手伝いをしました。2015年度は6回実施され、201人が宮城県蔵王町にある遠刈田温泉で楽しく過ごしました。福島の子どもたちに笑顔が戻りました。

【津波記憶石プロジェクト】

サービスセンターで「復興応援しあわせのクローバーのたね募金企画」を実施しました。「復興応援しあわせのクローバーのたね」は、シロツメクサの種子を販売し、代金の一部を「津波記憶石建立資金」とするもので、岩手県大船渡市、宮城県女川町に次いで、青森県八戸市の津波記憶石の建立資金として寄付しました。



宮城県女川町地域医療センター内に建立された「津波記憶石」

【鎮魂と追悼のモニュメントへ100万円寄付】

河北新報が事務局を担う「東日本大震災鎮魂と追悼のモニュメント建立プロジェクト」に対し、みやぎ生協としても「鎮魂の祈りをささげられる場所が必要」と考え、100万円を寄付しました。



3



4

1.2.福島の子ども保養プロジェクト(蔵王町) 3.クローバーのたね企画 4.石巻市湊小学生図書館へ図書贈呈式

未来を担う子どもたちに夢と希望を届けました

学校部・(株)学校用品協会としての支援活動

【みやぎの子どもたちを元気に!】

南極観測隊スタッフによる「南極クラス」を提携住宅メーカー（ミサワホーム）の協力で開催しました。2015年度は、県内の学校8校と、父母教師会連合会の主催で開催しました。“未知の世界”である南極での活動を伝えることで、未来を背負う子どもたちに夢と希望を届けました。



南極観測隊による南極クラス

【小学校でバロックアンサンブルコンサート】

亘理地区の小学校2校で、フルート・チェロ・ピアノによるバロックアンサンブルコンサートを開催しました。クラシックだけでなく、誰もが知っているおなじみの曲も演奏し、子どもたちは曲に合わせて歌ったり踊ったりして楽しい時間を提供しました。



小学校でのバロックアンサンブルコンサート

【中学校でリコーダーデュエットコンサート】

リコーダーデュエット演奏会を中学校19校で開催しました。東京リコーダー協会講師の2人がポップスからクラシックまで幅広く演奏し、生徒や先生方に大変喜ばれました。



中学校でのリコーダーアンサンブルコンサート

【他県の学校用品会社からの図書】

福岡県、徳島県、富山県の各学校用品会社から、宮城県の小学校6校へ図書館図書の寄贈支援を頂きました。(株)宮城県学校用品協会が代理として各学校へ図書館図書を届け、贈呈式を行いました。



仙台市立東六郷小学校図書館へ図書贈呈式

【子育て支援講演会】

こ～ぶ家庭教育センターでは、10月6日、7日に、幼児・小学生を持つ保護者向けに、子育てに役立つ「林健太郎先生（メンタルトレーナー）の子育て支援講演会」を開催し、涌谷会場で約100人、仙台会場で約200人が参加しました。また、こ～ぶアフタースクール太子堂校では、6月に子ども祭りを開催し、親子合わせて100人が参加しました。



子育て支援講演会



被災者を支える協同の輪

被災者支援事業への協賛

【東北楽天「がんばろう東北 被災地招待事業】

みやぎ生協は、東北楽天ゴールデンイーグルス「がんばろう東北」支援活動の一環として「被災地招待事業」に協賛しています。この活動は2011年5月より2015年まで35回実施しました。2015年度は計6回開催し、延べ1,076人(小学校16校、中学校8校、8つの野球チーム、仮設住宅3ヶ所にお住まいの方々)を招待しました。招待者はユニフォームプレゼント、選手との写真撮影、イベント参加などに大喜びで、思い出に残る一日となりました。



【みやぎ生協プレゼンツ「仙台89ers冠試合】

2015年11月15日ゼビオアリーナ仙台で開催された「岩手 ビックブルズ戦」に協賛し、被災地の荒浜、汐見のミニバスケットチームの親子118人を招待しました。子どもたちにオリジナルTシャツをプレゼントし、ハーフタイムアトラクションの参加選手との記念撮影を行いました。

【ベガルタ仙台「復興支援サッカーキャラバン】

復興支援として、ベガルタ仙台が小学校で開催する授業型「サッカーキャラバン」に協賛し、2015年は40回で3,669人が参加しました。また、被災地招待企画「宮城・東北ドリームプロジェクト」には、19試合に延べ16市町村1,459人を招待しました。

【行政、町内会や大学などとともに】

震災から5年が過ぎましたが、河北新報社の「今できることプロジェクト」など復興に向けて様々な団体が行う復興支援事業に資金面で協賛し、復興支援の一翼を担いました。また、これから社会を担う学生のために各大学の大学祭、地域の伝統的祭りなどにも協賛しました。

【県民のみなさんへ復興支援活動広告】

みやぎ生協とメンバーが継続して行う復興支援活動をお知らせするため、新聞への全面広告を河北新報に掲載しました。今年は「古今東北」の紹介も加わり、地場産業の復興支援をさらに強めました。復興への道のりはまだまだ途上です。私たちは被災地が本当の復興を得るまで、被災者・被災地の支援を継続します。



3.11 14:46



SENDAI



3

東日本大震災を忘れない、風化させない、伝え続ける
2016年3月11日 東日本大震災を忘れないつどい
みやぎ生活協同組合

4

1.楽天の被災者招待試合 2.ベガルタ仙台「復興支援サッカーキャラバン」 3.リニューアルした震災資料室 4.東日本大震災を忘れないつどい

3.11 東日本大震災を忘れない

東日本大震災を風化させず、社会インフラとしての役割を果たすために

東日本大震災 学習・資料室

東日本大震災を風化させず、また、震災直後からみやぎ生協が取り組んできたことを学んで、後世に伝え続けるための施設として、2013年3月5日に文化会館ウィズ内にオープンしました。民間でこのような施設は他にはありません。3年間の入場者数は約5,100人で、メンバーだけではなく、どなたでもご覧頂けます。2016年3月11日にリニューアルオープンしましたので、ぜひ一度ご覧下さい。



改裝前



改裝後は当時の様子をより多く伝えます。

「被災地は今」の情報発信

震災からしばらくすると、震災に関する報道等は徐々に少くなり、風化が現実味を帯びてきました。しかし、被災地では新たな問題が次々と起こり、「復旧や復興はまだまだ」という状況でした。そのような中で被災地の実相を理解して頂くため、被災地で今起こっていることを全国の生協へ毎月1回発信する取り組みを2013年9月に開始しました。現在まで発信回数は30回を超え、被災地の現況を知って頂く重要な情報となっています。

東日本大震災を忘れないつどい

毎年3月11日に犠牲者を悼み、震災を忘れず、そして震災の時にやってきたことを伝え続けるために、「つどい」を開催しています。



日本生協連の浅田会長

〈第1章〉

食品の 安全を確保する 仕組み



食品の安全を確保する仕組み

みやぎ生協 食品の安全・安心に関する基本方針

みやぎ生協は、メンバー（組合員）が安心して商品を利用できる生協づくりを進めます。取引先および生産者と共同し、取り扱う食品の安全管理のレベルを向上させ、食に関するメンバーの願いの実現を目指します。
そのために、以下の基本方針に基づく取り組みを進めます。

- 1.取引先、生産者、メンバーとコミュニケーションをはかり、生産・仕入れ・製造・加工・メンバーへの供給の各過程を通して、食品の安全性を高めます。
(1)食品の安全マネジメントシステムで適切な課題・目標を設定して実行し、その進捗状況を検証し、定期的に見直し、継続的な改善ができる仕組みをより確かなものにし、運用します。
(2)重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みを向上させるとともに、万が一重大商品事故が発生したときの被害を最小にするため、対応方針・手順を明確にし、訓練します。
(3)安全な食品をお届けするために必要な職員の力量を高めるために、教育・啓発を計画的に行います。
- 2.食品の安全や衛生に関する法令・規制を順守するとともに、必要に応じてそれらに基づく内部ルールを制定し管理を進めます。
- 3.メンバーと産直生産者の交流を活発にし、「顔とくらしの見える産直」活動の輪を広めます。
- 4.県内産・国内産食品の取り扱い拡大と食料自給率の向上に寄与する活動を進めます。
- 5.食に関する学習・体験の活動にメンバー・他団体と協力して取り組み、安心できる食生活の実現に貢献します。
この食品の安全に関する基本方針は、生協内外に公表します。

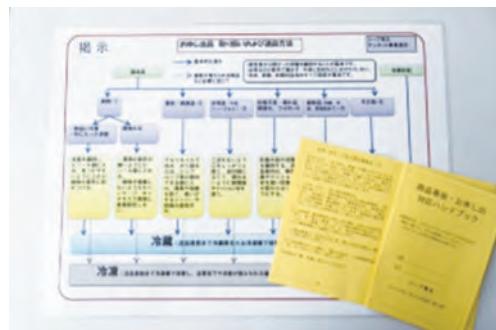
2011年4月22日 みやぎ生活協同組合

商品の安全対策室

【重大商品事故の兆候管理システム】

重大商品事故の兆候を見逃さないため、お申し出への対応や判断に誤りが無いか、事故の原因解明と再発防止策がしっかりと行われているかなど、最後までしっかりと監視しています。

2015年度も、重篤な人体被害などの重大商品事故に発展した案件はありませんでした。



「お申し出」に関するマニュアル

◆食品の安全に関する詳細はこちらからご覧いただけます。<http://www.miagi.coop/products/safety/>



1.コープ東北商品検査センター 2.理化学検査① 3.理化学検査② 4.微生物検査 5.店舗衛生点検 6.放射性物質検査 7.工場点検

【「餃子事件を教訓とする月間」の取り組み】

「手作り餃子農薬混入事件」のときに決意したこと・反省したことと風化させないために、毎年2月度を「餃子事件を教訓とする月間」として、事件の内容と作り上げてきた食品の安全を確保するためのルールを全職員が学習しています。

【食品の安全マネジメントシステム】

各部署が「食品の安全・安心に関する基本方針」に基づいた目標と、それを実現するための教育・実施・検証の計画を立て、毎月進捗管理をして活動を進めています。

内部監査や外部検査の結果などもふまえて、取り組みの有効性を評価し、目標が達成できない場合には、その原因を明らかにして対策を補強していくことで、改善を積み上げています。

【2015年度の改善例】

- ①店舗や共同購入で提供する商品のアレルゲンや産地などの表示の間違い件数を昨年よりも削減しました。
- ②共同購入では、メンバーからのご意見やお申し出を記録する際の不備件数を昨年よりも削減しました。
- ③メンバーから質問やお申し出を頂いてから、生協が回答を作成するまでの期間を短くすることに努め、昨年よりも大きく改善しました。



商品検査センター

【放射性物質検査】

「めぐみ野（産直品）」品に加え、COOP商品やアクアクララ水、一般市場品の農畜水産物の検査を商品検査センターで定期的に行っています。2015年度は502検体の検査を行い、いずれの結果も問題はありませんでした。検査結果は、店頭掲示や共同購入の納品書、ホームページでお知らせしています。

放射能 摂取量調査の手順

2011年度から日本生協連と協力し実施しています。2015年度は30世帯のメンバーに協力をいただきました。

- 測定の結果、全世帯で検出はありませんでした。
- 1.各家庭で食事をもう一食余分に作ります。
- 2.一食分ずつフリージングバッグに入れ冷凍庫に保管します。
- 3.各家庭から2日分の食事とアンケート、献立調査票、食事の写真が届きます。
- 4.食事をミキサーで粉碎し均一に混せて、そのうち2リットルを検査試料とします。
- 5.細かくした検体を専用の容器にできるだけ隙間なく詰めます。
- 6.検体を詰めた容器を検出器にセットします。1検体の測定時間は約14時間です。
- 7.パソコン上で操作して、モニターに表示されたデータから、物質の種類と濃度を解析します。

◆放射性物質問題への対応に関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/products/safety/radiation/>



品質管理・商品検査の取組み

メンバーに安心して商品を利用して頂くために、食中毒の原因となる微生物検査や「めぐみ野」野菜等の残留農薬の検査等を行い、結果を衛生改善や栽培指導に役立てています。

1) 微生物検査

累計	総検体数	共同購入配達商品	店舗調理加工商品	店舗一般メーカー商品(テナント含む)	COOP商品・生産部生産品	取扱事前検査など
検体数	11,723	2,433	2,763	2,152	852	3,523

検査結果は、店舗やメーカーの衛生管理向上のために活用しました。

2) 残留農薬検査

累計	総検体数	めぐみ野 野菜	めぐみ野米	一般品
検体数	382	332	26	24

検査結果から、全て残留基準値内であることを確認しました。

3) COOP商品の原材料の確認

項目	遺伝子組み換え	品種判別	産地判別
検査品目数	4	8	3

みやぎ生協が指定した原材料のうち、検査で検証可能な15品目のCOOP商品について、外部検査機関で検査を実施しました。その結果、適切に使用されていることを確認しました。



残留農薬検査

顔とくらしの見える産直

「めぐみ野」

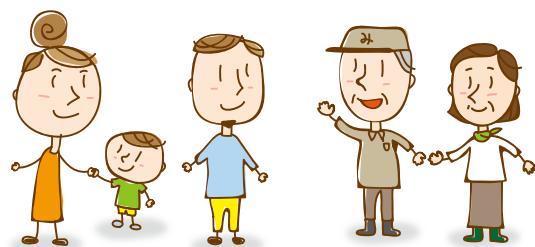
ふるさとの豊かな自然が授けてくれる恵み

生産者の方々のたゆまぬ努力によりもたらされる恵み

おいしくて安全な食卓に支えられた健やかな毎日という恵み

そして、作る人と食べる人がお互いを思いやる心の恵み

46年前にみやぎ生協の前身「宮城県民生協」の組合員と生産者の方々が「顔とくらしの見える産直」を開始しました。生産者と消費者の食に対する思いを直接結ぶことが、「産直結」の取り組みです。



【事業と運動の基本的な立場】

みやぎ生協の「めぐみ野」の事業と運動は、生産者と消費者の共通の願いを実現するために、次のような基本的な立場で提携活動を進めています。

- ①健全な日本型食生活の確立と食料の安全性を高めます。
- ②食料自給率の向上をめざし、日本と宮城県の農・水・畜産業とその加工業、及び生産者の暮らしを守る国民合意の運動を進めます。
- ③産消提携活動に積極的に取り組みながら、地域経済の活性化と文化の発展、自然環境の保全に寄与します。



3



4

1.产地研修会(志津川湾) 2.新人产地研修会(援農作業) 3.角田苺部会40周年式典 4.農薬農法プロジェクト

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」 3つの基準

- ①だれ(生産者)がどこ(产地)で作ったかがわかること。
- ②どのように作ったか(栽培・飼育)がわかること。
- ③生産者とみやぎ生協のメンバーの交流があること。

【数字で見る「めぐみ野」】

「めぐみ野」商品の取り扱い.....	43品目
朝とりほや(4月)、勝栄丸のまぐろ・かつお(11月)がめぐみ野商品に加わりました。	
2015年度供給高.....	58億2千万円
みやぎ生協と「産消提携に関する基本協定書」を 締結している団体(「宮城県産消提携推進協議会」).....	44団体
「めぐみ野旬菜市場」設置店舗.....	38店舗

今まで… これからも。

みやぎ生協 産直の出発点



1970年、組合員からの「安全でおいしい肉が食べたい」という声を受け、みやぎ生協の前身である宮城県民生協と角田市農協(当時)で、「鶏卵」「豚肉」「鶏肉」の産直を始めたのが出発点です。生産者は安全で安心なものを食べたいという声に応えようと努力を惜しませんでした。しかし、経営的には厳しかったため、組合員は「生産者の生活が成り立つ価格」での供給を提案しました。お互いの立場、環境を学び理解し合うこと。これが「顔とくらしの見える産直」の原点で、今でも受け継がれています。



【めぐみ野 ビジョン】

2020年には宮城の産直が開始されてから50年を迎えます。産直開始当時と比べ、農畜水産業を取り巻く環境は大きく変化しました。また、東日本大震災後、改めて「協同の絆」「交流の大切さ」が認識されました。私たちは原点に立ち返って「産消提携の目的」を再認識し、地元地域の「くらしへの役立ち」「豊かな地域づくり」に向けて、生協の社会的役割を果たしていくなければなりません。そのためにも、今こそビジョンを掲げて、生協職員・生産者・メンバー・お取引関係各社全員が同じ目線でビジョンに取り組んでいきます。





2

めぐみ野 旬菜市場

「安全でおいしい野菜を食べたい」というみやぎ生協のメンバーの願いと、「その願いに応えたい」という生産者の思いから生まれた「めぐみ野 旬菜市場」。現在38店舗に設置し、県内23の生産者グループが旬の野菜の中から自分たちの目で選んだ自信作を店舗に届けています。

「めぐみ野」いちご

農薬と化学肥料の使用は、宮城県の一般的な栽培の半分以下に減らしています。甘さと酸味が程よく調和したおいしさです。



「めぐみ野」きゅうり

皮がやわらかく白い粉がついている「ブルームきゅうり」です。浅漬けにすると、そのおいしさがよく分かります。



「めぐみ野」豚（ポーク）

赤豚種と白豚をかけ合わせ、やわらかくセのないおいしさになっています。



「めぐみ野」三陸産湯通し塩蔵わかめ

三陸で養殖された肉厚で歯ごたえが良いわかめです。しっかりと脱水してからパック詰めしているので、余分な水分や塩分は含まれません。



「めぐみ野」交流活動

【「めぐみ野」産地体験・交流会】

産地見学・体験会を81回開催し、2,627人が参加しました。メンバーとの暮らしに関わる交流・体験の機会を増やしました。わが家の味噌作り体験、「めぐみ野」田んぼの学校、バケツ稻コンテストなど、親子で参加・交流・体験できる企画に取り組み、1,026人の親子が参加しました。

【「めぐみ野」クッキング教室】

生産者・お取引先様が講師をする料理教室を15回実施し、237人が参加しました。農協・漁協の女性講師には「女性同士の交流で話が弾み楽しい」と好評でした。

【「めぐみ野」米バケツ稻栽培コンテスト】

「めぐみ野」米バケツ稻は、21店舗で713家族に配付しました。10月にはバケツ稻栽培コンテストを実施しました。栽培日誌には日々の観察が書かれ、苗からお米になるまで、そして味わうことまでを体験しました。



「めぐみ野」米バケツ稻栽培コンテスト



3



4

1.太子堂店秋まつり 2.JAみやぎ仙南「めぐみ野」米 田植え体験(丸森地区) 3.「めぐみ野」田んぼの生きもの調査(丸森地区) 4.JAみどりのじゃがいも植付け体験(田尻地区)

「めぐみ野」学習と普及活動

【「めぐみ野」学習会・学習塾】

「めぐみ野」学習塾を34回開催し、785人が参加しました。こ～ぶのつどいで行った「めぐみ野」の学習は39回で974人が参加し、「めぐみ野」品の特徴などへの理解を広げました。

【「めぐみ野」品の普及活動】

毎月15日の「いいコープの日」に行う店頭普及活動のほか、各エリアで行った「めぐみ野」品普及活動には199回で2,321人が参加しました。毎月第一土曜日には「めぐみ野」米の普及を行い、また全店舗と5エリアでは秋祭りも開催しました。安全・安心な「めぐみ野」品のおいしさをアピールし、利用を呼びかけました。



今までも… これからも。

「めぐみ野 生産者への 支援募金」

震災後の復旧・大雪被害への支援として「めぐみ野 生産者への支援募金」に取り組み、寄せられた募金は1,110,311円になりました。宮城県漁協志津川支所のコンテナの購入、JAみやぎ仙南（丸森）の原木しいたけハウス整備、鳴子上原酪農組合の牛舎復旧に活用して頂くために贈呈しました。



「めぐみ野」のつながり

第34回宮城県めぐみ野交流集会

2015年11月25日仙台国際センターにて「第34回宮城県めぐみ野交流集会」を開催し、メンバー・生産者・産消提携団体・お取引先様・生協職員1,300人が参加しました。

午前は先進事例として京都生協からの報告と水産物・納豆の実践取り組み報告があり、午後は各分野に分かれて交流を深める分科会が行われました。

TPP参加反対運動を幅広く

2015年6月15日「TPPから食とくらし・いのちを守る6.15宮城県民集会」が開催され、900人が参加しました。みやぎ生協からは30人が参加し、TPP反対をアピールしました。



「めぐみ野」牛乳 タオル1本運動

「めぐみ野」牛乳生産者を応援する「タオル1本運動」は、店舗掲示ポスターを新たに作成してタオルの提供を訴えたことなどから、運動開始以降最多の10,092本のタオルが寄せられ、生産者にお渡しすることができました。

〈第2章〉

メンバー（組合員）活動



1

自主的でいきいきとしたメンバー活動を進めています

メンバー（組合員）活動

【こ～ぶのつどいと楽しいひととき】

みやぎ生協の良さを知って頂き、地域でのふれあいや絆を深め合う場として、初夏と秋に宮城県内各地域でこ～ぶ委員会による「こ～ぶのつどい」を開催しました。徒歩でも参加できるように、生協の集会室だけでなく、地域や仮設住宅の集会所などでも実施しました。初夏のつどいでは絵本の読み聞かせにより平和の大切さを、秋のつどいではローリングストック（循環備蓄）とコープ商品を、わかりやすく楽しんで学んで頂きました。

【楽しくてためになるこ～ぶ委員会活動】

生協の取り組みやくらしに関わることを学習したり、興味・関心のあることを企画したりして、「楽しくてためになるこ～ぶ委員会」活動をすすめています。2015年度は「めぐみ野」品やコープ商品を中心に、食べて触って見比べて、楽しく活動しました。



「こ～ぶ委員会」で楽しくおしゃべり



太子堂店サークル・カルチャー発表会

【サークル活動・カルチャー活動】

あつまる・つながることに価値観をおいたコミュニティの活動として「サークル活動」「カルチャー活動」を展開しています。「サークル」はくらしや趣味を通してわいわいする活動、「カルチャー」は生協に登録した講師のもとで趣味や文化活動を楽しむ活動です。あわせて約6,400人のメンバーが集会室で活動しています。

《こ～ぶ委員会、こ～ぶのつどい、はん会》

項目		2014年度	2015年度
こ～ぶ 委員会	委員会の数	330	333
	委員人数(人)	2,767	2,688
こ～ぶ の つどい	初夏のこ～ぶのつどい参加人数(人)	10,840	11,387
	秋のこ～ぶのつどい参加人数(人)	11,346	11,030
はん会	紫陽花はん会開催数(回)	6,131	5,362
	秋桜はん会開催数(回)	5,497	5,509

◆メンバー活動の詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miyagi.coop/member/>



2



3

1.たのしくっておいしい「ご~ぶのつどい」 2.「めぐみ野」三陸産塩蔵わかめ料理教室 3.仙台市福室小学校5ADAY食育体験ツアー お買い物ゲーム

食の活動と子育て支援

【5ADAY食育体験ツアー】

5ADAY食育体験ツアーは、食育を通じて野菜や果物を摂る大切さを訴えていく運動です。小学生が食育インストラクターや店の人に話を聞き、「買い物ゲーム」や「サラダ作り」では野菜や果物を直に見て、触って、味わい、野菜と果物を食べる大切さを学習しました。2015年度は県内21の小学校で58回実施し、1,882人の児童が参加しました。地域での親子開催は、明石台店で親子7組16人が参加しました。

【たべる・たいせつ料理教室】

「めぐみ野」米(ご飯)を中心とした日本型食生活の調理実習の企画「たべる・たいせつ日本型食生活料理教室」を、ウィズ、名取西店、蛇田店、気仙沼メンバー集会室ぽけっと、白石店、加賀野店の6ヶ所で開催し、メンバー105人が参加しました。ご飯に牛乳・乳製品を加えて健康寿命をのばすバランスの良い食事メニュー「乳和食」の実習講座で、日本型食生活や食生活提案について学びました。



たべる・たいせつ日本型食生活料理教室(加賀野店)

【料理教室 ワンプレートで和のごはん】

日本型食生活の普及を目的として、料理教室を幸町店、明石台店、鶴ヶ谷店、太子堂店、榴岡店で開催し、メンバー53人が参加しました。仙台市地域活動栄養士会から講師派遣とメニュー提案のご協力を頂き、和食の基本「だし」のとり方や減塩、主食の大切さなどを学習しながら、料理をワンプレートに彩りよく並べて、一汁三菜でバランスのとれた「日本型食生活」を学び、味わいました。

みやぎ生協では、お取引先様の企業にご協力頂きメンバーを対象に商品学習会や工場・施設見学を実施しています。また、被災者支援として仮設住宅集会所での企画も実施頂き、住民の方々に喜ばれています。

2015年度見学会にご協力頂いたお取引先様(順不同・敬称略)

- 株ナリス化粧品 ●キリンビール仙台工場 ●ホクト㈱ ●株志田金 ●伊藤ハムデイリー(株)
- 株八幡屋 ●みちのくミルク(株) ●サントリー(株) ●株パールライス宮城 ●JAいしのまき ●JAみやぎ仙南
- JAみどりの ●宮城県漁協志津川支所 ●柳生産直会

2015年度学習会にご協力頂いたお取引先様(順不同・敬称略)

- 三菱食品㈱ ●小川珈琲㈱ ●UCC 上島珈琲㈱ ●森永製菓㈱ ●雪印メグミルク㈱ ●株明治
- カゴメ㈱ ●大塚製薬㈱ ●ユウキ食品㈱ ●ブジコ㈱ ●太子食品工業㈱
- 株みすずコーポレーション ●株 MNリテールサービス ●日清オイオングループ(株)
- 株ナリス化粧品 ●伊那食品工業㈱ ●石井食品㈱ ●株加工連 ●エバラ食品工業㈱
- オタフクソース㈱ ●ブルーバックソース㈱ ●キッコーマン食品㈱ ●ハウス食品㈱ ●エヌビー食品㈱
- 株ウラブコスメチックス ●スリーエムジャパン㈱ ●マルハニチロ㈱ ●ホクト㈱ ●株マックプランニング
- 株仙台水産 ●株伊藤園 ●カタギ食品㈱ ●白鶴酒造㈱ ●サンスター(株) ●カルビス㈱
- 株クリエ ●味の素冷凍食品㈱ ●イトアント(株) ●株ヤマダフーズ ●キユーピー(株)
- 株ニチレイフーズ ●株日本香堂 ●株日專連ライフサービス ●森永乳業㈱
- 東北電力㈱ 石巻営業所 ●株志田金 ●株コモ ●株協同乳業 ●ヤマキ(株)
- 株タカキベーカリー ●メルシャン(株) ●宮城中央ヤクルト販売㈱ ●株パールライス宮城
- キリンビールマーケティング㈱ ●ロッテアイス㈱ ●伸栄商事㈱ ●大塚食品㈱ ●井村屋(株)
- ボッカサボロード&ビハッジ(株) ●キヨーマンデイリー(株) ●株千代の一番 ●成田食品㈱
- 味の素ゼネラルフーズ(株) ●アサヒ飲料㈱ ●仙都魚類㈱ ●JAみやぎ仙南 ●JAみどりの
- 宮城県漁協志津川支所 ●カネ吉田商店 ●株海祥

◆ 5ADAY食育体験ツアー開催の様子は[こちらからご覧になれます。](http://www.miagi.coop/member/shokuiku/5aday/)<http://www.miagi.coop/member/shokuiku/5aday/>



1



2

食の活動と子育て支援

【子育てひろば】

0歳～未就園児とご家族を対象に、ほっと一息つくゆとりを持つてもらうことで子育てを楽しいと感じられる場を27会場で提供しました。親子延べ4,232人が参加し、延べ1,084人のボランティアスタッフが地域の子育てを見守りました。楽しい企画も実施しました。

【子育てふれんずニュース】

子育て中の編集委員が、楽しくてためになる旬な情報を年4回ニュースにして、子育てふれんずに登録している2,213人に届けました。また日々の暮らしに役立つ登録者限定の学習会「ママ塾」を6回開催し、69人が参加しました。「託児をしながらゆっくり勉強できる」と好評です。

【COOPママのサポートクッキング・おはなしキッチン】

子育てひろばで食育についてワンポイント・アドバイスをお届けする「COOPママのサポートクッキング」を46回実施しました。絵本を通して創造する力を育み、食に興味を持つきっかけとなる「おはなしキッチン」を6回実施し、親子155人が参加しました。



塩釜栄町店子育てひろば「トットちゃん」でのCOOPママのサポートクッキング

こ～ぶくらしの助け合いの会

くらしの助け合いの会の活動は、2015年9月で30周年を迎えました。10月には行政の来賓や歴代のコーディネーター、活動会員を迎えて30周年を記念するつどいが開催されました。設立当初100人に満たなかった会員も、2015年度末には2,455人、年間の活動時間は31,614時間と、大きな活動に成長しました。今後は介護保険制度の改定に伴って地域の生活支援活動として高まる期待に、どのように対応すべきか検討を重ね、メンバーが気軽に利用・参加できる助け合いとして、福祉の輪を広げていきます。



助け合いの活動は、子育て家庭支援にも取り組んでいます。

こ～ぶくらしの助け合いとは

メンバーどうしの助け合い活動として1987年に設立されました。会員は利用会員・活動会員・賛助会員があります。活動は高齢者だけではなく、障がいや病気の方、また若い子育て家庭も対象に支援が行われています。

会員になるためにはみやぎ生協のメンバーであることと、入会時に1,000円(翌年以降は年会費1,000円)が必要です。

会員数:活動会員550人、利用会員1,451人、賛助会員454人(2016年3月21日現在)

桜ヶ丘店でのふれあいお食事会ボランティア梅津加知子さん、伊藤ひでさん、阿部ひろ子さん、佐伯邦子さんの、20年以上の福祉活動の功績に対し、平成27年度仙台市社会福祉協議会会长表彰として、ボランティア功労者感謝状が送られました。



市社協表彰

◆福祉に関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/fukushi/>



3

1.気仙沼エリア子育てひろば「ひまわり」の様子 2.「ピースアクション in ヒロシマ平和行動」参加者 3.こ～ぶくらしの助け合いの会30周年式典 4.「いわさきちひろ複製画展」学芸員ギャラリートーク



4

平和について考える活動

【沖縄戦跡・基地めぐり】

2015年3月25日～27日の「沖縄戦跡・基地めぐり」に、親子2組、学生3人を派遣しました。その報告会を4月2日に開催し、42人が参加しました。現在の沖縄における諸問題やこれからの中平和について考え、地上戦の傷跡や今なお残る米軍基地など、沖縄の現状を目のあたりにして実感した、平和の大切さを訴えました。



【ヒロシマ平和行動】

2015年8月4日～6日に行われた「ピースアクション in ヒロシマ」に親子4組、学生3人を派遣しました。その報告会を8月18日に開催し、100人が参加しました。参加者は、被爆者の証言で被爆の実相を知り、平和公園の碑めぐりや平和記念資料館の見学で被爆の痕跡について学んだことを報告しました。生協ひろしま「子どもによる子どものための碑めぐりガイド」2人の報告では、被爆の実相を次世代へ継承することと、平和の大切さを訴えました。



【平和の大切さを伝える活動】

平和をテーマに「仙台空襲や平和の本の朗読会」「子どもたちに平和な未来を～渡辺祥子さん朗読会（4会場）」「いわさきちひろ複製画展（7会場）と講演会・ギャラリートーク」を開催し、多くのメンバーに平和の大切さを伝えました。



【憲法九条を守る活動】

2015年11月7日に「憲法九条を守り生かす宮城のつどい2015」が仙台サンプラザホールで開催され、1,400人が参加しました。講演では名古屋大学名誉教授の森英樹氏が「私たちの税金が軍事費に使われている。憲法はまだ変えられていないのだから運動を持続していくことが重要である」と話しました。

【安保法案可決に反対する意見書送付】

2015年9月19日に、憲法違反である安全保障関連法案が参院特別委員会で強行採決、参院本会議で可決・成立したこと強く抗議する意見書を、内閣総理大臣、自民党総裁、公明党代表、次世代の党首宛に送付しました。

◆平和とくらしに関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/heiya/>

〈第3章〉

事業活動



暮らしに役立つ事業

店舗

【買い物を楽しく快適に　人に優しいお店に】

探しやすい売場、選びやすい商品陳列、見やすい案内表示に努め、買い物を楽しい時間にします。また全店に「サービス・ケア・アテンダント(高齢者やお身体の不自由な方、買い物で困っている全ての方々へのサービス)」の資格者を配置し、人にやさしい店舗運営に努めています。



【新鶴ヶ谷店オープン】

鶴ヶ谷店が、2015年4月9日に移転オープンしました。1975年に開店、その後1992年から新しい建物で営業していました。この移転で、鶴ヶ谷に「生協のお店があつてよかった」と感じて頂けるよう、より便利で地域に密着した魅力ある店舗を目指します。

【既存店の改装統々】

2015年度は高森店、柏木店、木町店、榴岡店の4店舗を改装しました。店舗の外装と内装を一新し、売場の商品とともに新しいスーパー・マーケットへの進化を感じられるデザインを追求しました。地域性とライフスタイルに合わせた鮮度感あふれる新しい売場構成で、「めぐみ野」商品をはじめとする安全・安心の産直品や、おいしさ・買い物の楽しさを追求した魅力ある売場と商品を提供します。改装によって生まれ変わった心地よい空間の中で買い物をお楽しみ頂けます。

【お支払いセルフレジ導入】

メンバーからの「レジ待ち時間を短縮して欲しい」という要望に応え、太子堂店と榴岡店にみやぎ生協の店舗では初めてとなる「お支払いセルフレジ」を導入しました。「お支払いセルフレジ」では、レジ係が商品登録を行い、メンバーに会計機での支払いをお願いします。メンバーからは「レジに並んだときの待ち時間が短くなった」という声を頂き、お子様連れのメンバーからも「楽しい、面白い」と喜ばれています。今後も導入店舗を増やし、メンバーの利便性向上と快適な買い物を目指します。



1.新鶴ヶ谷店オープン 2.お支払いセルフレジ 3.改装した木町店 4.iCScaのチャージ機 5.トリプルカード提携30周年

店舗

A&COOP 松島店】

2015年10月1日、みやぎ生協とエーコープが協同運営する「A&COOP松島店」がオープンしました。(株)エーコープ宮城とみやぎ生協の協同運営する店舗は、日本で初めてです。同じ協同組合組織として、それぞれの特徴を生かし協力し合うことで、今後の地域づくりの発展に寄与します。開店初日は開店前に270人が並び、開店後も来店者が増え続け、一時入場制限するほどの盛況ぶりでした。



【無料Wi-Fi コープスポット】

みやぎ生協は、東北の地域生協で初めて無料Wi-Fi「COOP SPOT」を全店に導入しました。パソコンやスマートフォン、タブレットにWi-Fiが備わっていれば、店内でインターネットに接続できます。スマートフォンやタブレットが急速に普及しており、店舗で無料Wi-Fiの利用を望むメンバーの声が高まっていました。これにより、イートインコーナーのある中・大型店では、より快適で便利にご利用頂けます。

iCScaチャージ機設置】

2015年12月6日の地下鉄東西線開業に合わせ、仙台市交通局のICカード「iCSca(イクスカ)」が仙台市地下鉄、市営バス・宮交バスで利用できるようになりました。これに伴い、仙台市内を中心とした16店舗にiCScaのチャージ機を設置しました。

「iCScaチャージ機」設置店舗

貝ヶ森店、桜ヶ丘店、国見ヶ丘店、愛子店、八幡町店、南光台店、鶴ヶ谷店、岩切店、高砂駅前店、幸町店、新田東店、南小泉店、西多賀店、八木山店、沖野店、明石台店

【トリプルカード30周年】

みやぎ生協と日専連仙台の提携によって1985年から開始された、キャッシュレスで買い物できるクレジットカード「COOPTリップルカード」が30周年を迎えました。このカードはみやぎ生協全店と日専連加盟店、JCB加盟店の全てで使用できる唯一のものです。現在約10万人のメンバーに広まっています。30周年を契機に、今後もメンバーにとってより使い勝手の良いカードにしていきます。



1



2

共同購入

【地域とともに高齢者を見守り活動】

増え続ける高齢者の一人暮らしや夫婦のみの世帯を見守る取り組みとして、宮城県内全35市町村と「高齢者見守りの取り組みに協力する協定」を締結しています。配達担当者が配達に伺った際、「いつもと違う、気になる事」があった場合に、各自治体が指定する窓口へ速やかに連絡し、地域のみんなで高齢者を見守る体制づくりの一端を担っていきます。

●共同購入職員による見守り活動

取り組みを開始した2012年10月から、合計で90件の「いつもと違う、気になる状況」の連絡があり、対応しました。配達担当者が異変に気づいてセンターへ報告し、センターから行政窓口へ連絡しています。引き続き地域に寄り添った取り組みとして継続していきます。

●個配・メールサービス

個人宅配利用者の配達時の在宅状況を、離れて暮らす家族の登録されたメールアドレスへお知らせする登録無料のサービスを継続します。

●ガスあんしん見守りサービス

お年寄りの一人暮らしなどで、一定期間まったくガスが使用されていない場合に、メールやFAXでご家族やご友人に自動的に通知する無料登録サービスです。コープガスを安心して利用頂くサービスとして継続します。

【夕食宅配サービス】

みやぎ生協の夕食宅配は、毎日の調理や買い物が困難な方に、平日、指定の場所まで夕食をお届けするサービスです。専属の栄養士がカロリーや塩分を考慮した日替わりメニューで、一食からでもお届け可能です。現在、県内で約2,000人に利用頂いており、サービスエリアを順次拡大しています。

また、県内の全市町村と協定を結び、配達時の「高齢者見守り活動」にも、日々取り組んでいます。利用メンバーやご家族の方々へ、健康な食生活と安心して生活できるサービスを提供できるよう取り組んでいきます。



生産部

【共同購入で冷凍寿司販売】

次世代の凍結機「プロトン凍結機」を利用し、細胞を破壊せずにシャリの保水効果を維持したまま凍らせた「冷凍寿司」を開発しました。シャリには評価の高い米「つや姫」を使用し、レンジで解凍した後もシャリが硬くならずにおいしく召し上がれます。2015年3月の発売から、冷凍握り寿司8種8貫、4種8貫、冷凍押し寿司（あなご）と、順次扱いを拡大して販売しています。



3



4

1.共同購入センター 2.共同購入職員 3.コープトラベルの産地ツアー 4.住まいの無料相談会

インターネット事業

【eフレンズ】

eフレンズは、生協が提供する楽しく便利なインターネットサービスです。インターネット上で共同購入の注文ができ、eフレンズでのみ購入できる商品もあります。請求書の内容を確認したり、商品のお勧めコメントを読んだりすることもできます。

【コープネットショップ】

コープネットショップでは、店舗のオードブルなどの「ご予約メニュー」を簡単便利に注文できます。お勧めスイーツや特産品の宅配企画もあります。大人用紙おむつの注文など、あると便利な宅配商品の取り扱いも増やしています。

【タブレット】

スマートフォンをお持ちでない方向けに、月額税抜1,800円という格安な8インチ「かんたん生協タブレット」を販売しています。大きな文字で共同購入の注文ができる画面や、生協で購入した分を自動的に登録する家計簿などがついています。使い方の講習会も開催しています。

■店舗チラシメール

指定した店舗のチラシが発行されたら自動的にメールでご案内します。右(上)のQRコードを読み取り、空メールを送って登録できます。



■共同購入注文控メール

共同購入で注文した内容全ての控を、メールでお届けします。右(下)のQRコードを読み取り、空メールを送って登録できます。



サービス事業

【住まいのセンター】

住まいのセンターでは、自然エネルギーによる発電とCO₂排出量の削減で環境保全に貢献するため、断熱ガラスと太陽光発電の普及拡大に取り組みました。リフォーム情報誌『Reフレッシュ』で毎月紹介したほか、断熱ガラスのサンプルを使って熱伝導を体験できる無料相談会を延べ56回、太陽光発電の無料相談会を52回、店舗で実施しました。断熱ガラスを利用したメンバーからは、「この冬は暖かい部屋で快適に過ごせそうです。」「防音効果や断熱効果もあり満足しています。」という声を頂きました。

【宅配水(アクアクララみやぎ生協)】

回収して再利用できるリターナブルボトルを使用し、環境資源に配慮したアクアクララ水の宅配事業を行っています。「安心しておいしいお水が飲める」と、県内1万600世帯の利用者から好評です。

【コープトラベル東北】

(株)コープトラベル東北は、みやぎ生協、いわて生協、生協共立社の出資で1994年に旅行事業を開始しました。メンバーの宿泊の手配やお取引先様の社員旅行等、旅行業務全般を扱っています。生産者と消費者が繋がっている生協だからこそできる産直交流事業の企画は、参加者から好評です。JTBや近畿日本ツーリストのパック旅行も利用できます。

CO・OP共済

【楽しく保障を提案します】

共済センターは、コーサケマジックショーを開催し、保障を考えるきっかけを提供しています。これからも、楽しいイベントを通して、CO・OP共済の輪を広げて行きます。





こーぶ福祉会

【こーぶ福祉会の介護事業】

こーぶ福祉会はみやぎ生協の福祉の理念を介護保険事業で実践するために、みやぎ生協が母体となって1999年に設立されました。2016年に17年目を迎える社会福祉法人です。

桜ヶ丘、石巻、緑ヶ丘の3ヶ所の「こ～ぶのお家」で、デイサービスセンター、ヘルパーステーション、ケアプランセンター、訪問看護ステーションを181人の職員が運営しています。また、みやぎ生協桜ヶ丘店内で、仙台市委託事業である桜ヶ丘地域包括支援センターを運営しています。204人の後援会会員と延べ3,000人のボランティアがこーぶ福祉会の活動を支えています。

【定期巡回サービスを開始】

2015年1月16日より桜ヶ丘地域を中心とした8つの中学校区で、在宅で暮らし続けられるサービスとして定期巡回随時対応訪問介護・訪問看護サービスを開始しました。デイサービスでは利用者の自立力を引き出すケアに取り組み、器具の活用や機能訓練を行っています。

【2016年にこ～ぶなごみの杜開設】

事業効率を改善するため、2016年度より「こ～ぶ福祉サービスセンター八乙女」の福祉用具サービスを他事業所に移行し、ケアプランを「桜ヶ丘ケアプランセンター」に統合します。

高齢者の方が安心して地域で暮らしていくよう居住型のサービスとして、ショートステイ併設サービス付き高齢者住宅「こ～ぶなごみの杜桜ヶ丘」を2016年11月に開設し、定期巡回サービス合わせて地域の利用環境を整備します。

【こーぶ福祉会の被災者支援の福祉サロン】

「こ～ぶのお家いしまき」を会場に、被災地域の高齢者のつながりの場として「こーぶ福祉サロン」を15回開催し、ボランティアを含めて延べ373人参加しました。2011年の開始以来、92回、延べ約2,230人が参加しました。

また、社会福祉法人協同福祉会(奈良県)、大和郡山ロータリークラブの方々の支援で、全国金魚すくい大会石巻予選大会と本選招待、鹿児島のNPO法人唐芋ワールドのサツマイモや春の柑橘などの配布企画に協力しました。

学校部・(株)宮城県学校用品協会

学校部・(株)宮城県学校用品協会

(株)宮城県学校用品協会はみやぎ生協出資の子会社で、県内の学校への教材販売や家庭学習教材・学習教室事業を取り扱っています。

【学校・先生方に役立つ情報提供】

学校部では、みやぎ生協が行っている環境・食・福祉・ユニセフなどの活動から、学校での学習素材として使えるものを『COOP 授業に役立つ学習ガイドブック』にまとめて掲載し、県内全小・中各学校へ届けています。



*ビデオ貸し出し、資料提供・頒布、生協店舗や取引先見学、生協事業所職場体験等の受入など

【職場体験・見学の受け入れ】

職場体験実習・見学は、店舗、共同購入、学校部、デイサービスセンター、産直コースなどを設定しています。2015年度は職場体験・実習職場見学(119校)、食育体験店舗ツアー(21校)などの受け入れを行いました。

【(株)宮城県学校用品協会の教育助成制度】

(株)宮城県学校用品協会は、宮城県内の学校教育の進展に寄与することを目的に、学校用品事業を通して生まれた収益の一部から小中学校の教育実践活動へ「教育助成」を行っています。学校研究活動助成・教育講演会・講習会講師紹介・派遣など、様々な教育研究活動や授業に役立てられています。

【学校教材販売事業】

(株)宮城県学校用品協会の学販部門は、県内すべての学校へ教材教具、備品、体育着などを販売しています。「よりよい教材をより安く」というテーマのもと、日常的に教育現場の先生方のご意見を聴き取り、児童生徒に役立つ、先生にとって指導しやすい教材の提供をモットーにしています。また、各小中学校教科研究会が編集、発行している出版物・図書の編集、販売支援をしています。代



4

5

6

1・2.こ～ぶ福祉サロンの活動風景 3.全国金魚すくい石巻予選大会

4.2015年度教育研究活動助成金交付式 5.書きぞめ展覧会の様子 6.こ～ぶアフタースクール太子堂校

表的なものとしては、小中書写研究会の書きぞめ手本作成・印刷、書きぞめ展覧会の後援や仙台市小学校教科研究会が編集・発行している夏休みドリル帳があります。今年の書きぞめ展覧会には、22,000人ほどが来場しました。

【こ～ぶ家庭教育センター】

幼児～中学生までの家庭学習教材販売、学習教室、英会話教室事業を通して、子どもたちの学力を向上させ、家庭学習を充実させる支援を行っています。また、学童保育事業として、こ～ぶアフタースクール太子堂校を開校しました。

【学校用品ネットショップ】

(株)宮城県学校用品協会のネットショップ「学校用品.net」が2014年オープンし、学校指定体育着や水泳用品、学校で使用する用品(書きぞめ用品、なわとび、リコーダーなど)の児童生徒教材などをパソコンやスマートフォンから購入できるようになりました。

<https://www.gakkouyouhin.net/>

コープ東北保険センター

火災保険や生命保険の学習会を46会場で実施し、512人が参加しました。参加者からは、「地震保険や医療保険を検討しよう」と好評でした。

事業を支える…

コンプライアンスの徹底

【公正な取引の徹底】

「公正な取引の徹底」はみやぎ生協の事業活動にとって最も重要なものであると同時に、お取引先様に対する最大の責務です。私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(独占禁止法)の第19条(不公正な取引方法の禁止)及び、一般指定第14号(優越的地位の濫用)に抵触するような優越的地位の濫用は、決して行いません。

【外部通報制度】

お取引先様とみやぎ生協のホットラインを設け、生協の役職員に何か問題があった場合に通報いただく仕組みを持っています。通報があった場合は、必要な調査などを十分行い、通報者に納得頂ける対応を行います。

【各種法令の遵守】

みやぎ生協が事業活動を行う上で遵守しなければならない法令は多岐にわたります。2013年7月より、事業活動に関する法令の改定を把握する仕組みを導入し、適切な対応を行うよう努めています。

【お取引先様とのパートナーシップ】

毎年6月、お取引先様の協力を頂きながら「みやぎ生協の方針説明会」を開催しています。これは、お取引先様にみやぎ生協の次年度の方針を理解頂き、より良いパートナーシップを形成していく一助とする目的としています。1982年のみやぎ生協設立以来続いている会で、2015年度はお取引先様894社、1,344人の方々に参加頂きました。

広報活動

【メディア広報】

みやぎ生協の活動について認知を高めるため、各部の宣伝広報方針を一本にまとめました。2015年4月から、TV・ラジオのコーナーとTVCを複数放映しています。事業活動や商品紹介だけでなく、メンバー活動や社会貢献活動のお知らせなど、生協としての地域活動をアピールしています。

【オリジナルアニメ】

ネット世代にもみやぎ生協に親しみやすいイメージを持ってもらうため、2本のオリジナルアニメを作り、インターネット上で公開しました。8月には男の子が「めぐみ野」生産者の愛情に触れるフルCGのアニメ『トマトになった男の子』、3月には個人宅配の配達員とおばあさんとの交流を描いた『金曜日の約束』を公開しました。

【ゆるキャラ作成】

みやぎ生協初のオリジナルキャラクター「こやぎのみやぎちゃん」が誕生しました。幅広い年代を笑顔にできる愛らしいみやぎちゃんを知ってもらい、みやぎ生協のイメージアップにつなげます。

〈第4章〉

社会貢献活動



地域社会のセーフティネットとして…

相談からご融資までをサポート

くらしと家計の相談室(生活相談・家計再生支援貸付事業)では、くらしや家計、融資など、お金に関するさまざまなお相談をお受けしています。2013年度の事業開始以来、メンバー加入にかかわらず、延べ2,788件の面談相談を相談無料で実施しています。



【くらしと家計、お金の困りごとの解決、改善をお手伝い】

収入減による生活費不足、車検、税金、学費など、まとまったお金が必要ながら、やりくりができないことは誰にでも起こります。家計不安を解消する方法、手段を相談者と一緒に考えています。解決に融資が適当な場合には、他制度優先を原則に、生協からの融資も行います。



【2015年度の相談・貸付支援の状況】

電話相談受付数	1,020件
面談相談者数	458人
延べ面談相談件数	782件
貸付支援件数	108件
貸付支援金額	8,809万円

(2016年3月20日現在)

みやぎ生協くらしと家計の相談室

相談からご融資までをサポート!

☎ 022-292-5015

仙台市宮城野区榴岡2-3-15 花本ビル8階 受付時間: 10:00~17:00(日・祝日を除く)

相談事例 Case 1: カードのリボ払いでの債務超過

使い勝手のいいクレジットカード。「リボ払い」の相談が増えています。毎月5万円使うのに支払は1万円。残り4万円は??単純計算で1年で50万円の借金を抱えることになります。ショッピング限度枠はどのカードも大きく、いつの間にか債務が100万円になっていることもあります。毎月のカード利用は、収入に見合った使い方で“翌月一括払い”を基本とし、ご自身のカード利用限度枠や毎月の返済額を意識して、無駄な金利をかけずに賢く使いましょう。

くらしの相談機能を強化しました

「くらしと家計の相談室」に寄せられる相談のほとんどが「お金」に関するご相談です。よりくらし全般に関するご相談への対応ができるよう、2016年3月21日より「くらしの相談ダイヤル」を開設しました。ご相談内容に応じて、みやぎ生協が提供している各種活動・事業を始め、外部関係機関をご案内しています。

☎ 022-292-5016



1.石巻市との基本協定締結 2.商品部パートナー協議会での様子 3.農林水産省食品ロス削減等総合対策事業の委員会 4.明治安田生命様よりコープフードバンクへ災害備蓄品の寄贈



コープフードバンクがめざすもの

お取引様の食品企業等から余剰食品の無償提供を受け、社会福祉に寄与する団体・組織へ無償で提供しています。食品の無駄をなくすとともに、誰でも安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

コープフードバンクの輪が広がっています

宮城・福島・山形に続き、岩手にもフードバンクの輪が広がりました。4県でコープフードバンクと協定を結んだ施設・団体は215団体となりました。各県内の社会福祉協議会を通じて、食料品等を食べることに困っている人へお届けできるようになりました。

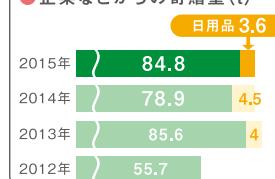
日用品について

食品以外のティッシュペーパーやトイレットペーパー、洗剤等の寄贈も増えました!毎日の生活に欠かせない日用品の寄贈も大歓迎です。

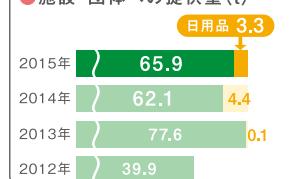


コープフードバンクの1年間の活動

●企業などからの寄贈量(t)



●施設・団体への提供量(t)



※災害備蓄も可能な賞味期限の長い食品などの入荷があったため、寄贈量と提供量に差があります。
引き続き在庫品を管理しながら計画的に出荷します。

●提供企業数(社)



●施設・団体数(団体)



●法人サポーター



●個人サポーター



●ボランティアに参加してくれた人数

延べ 252 人

2016年3月20日現在、法人サポーター企業様108社 (五十音順)

●あいおいニッセイ同和損害保険(株)東北本部	●(株)大沼製葉	●(株)サイコー	●セルティックエンジニアリング(株)	●東通インテグレート(株)	●パソニック産業システムズ(株)東北支店	●(株)マルタマ
●アクアクララ(株)	●小山産業(株)	●(株)斎良工業	●(株)仙水	●(株)東北ドバーンス	●(株)パールライス宮城	●九大堀内(株)
●アフラック仙台総合支社	●オリックス自動車(株)	●佐川印刷(株)	●仙台国際ホテル(株)	●東北共栄建設(株)	●(株)ビーブロ	●マルニ食品(株)
●(株)あたの仙台支店	●勝山企業(株)	●(株)サー商会	●(株)仙台水産	●(株)東流社	●(株)槍野左官店	●三菱食品(株)東北支社
●(株)イーネット	●加藤産業(株)仙台支店	●(株)佐元工務店	●(株)仙台タクエ	●(株)雷櫻工業	●(株)フジシ	●(株)みなとモーター
●イカリ消毒仙台(株)	●神奈川クリーニング	●三協青果(株)	●(株)仙台放送	●(株)キワ	●(株)フクダ・アンド・パートナーズ	●(株)宮東
●(株)イーグルス	●共栄火災海上保険(株)	●サン・ベンディング東北	●(株)仙南瓦工業	●(株)凸版印刷(株)東日本事業本部	●富士ゼロックス宮城(株)	●みやぎ県南医療生活協同組合
●砂金石油ガス(株)	●東北支店仙台支社	●(株)シーテック仙都	●(株)セケン	●(株)西松建設(株)北日本支社	●(株)ブランニング・オフィス社	●公益財團法人宮城厚生協会
●(株)伊藤園南東北地区量販店課	●空調技工(株)	●(株)七十七銀行	●(株)損害保険ジャパン日本興亜(株)	●(株)日專連ライフサービス	●(株)ホクトコーポレーション	●(株)宮城読経NS
●内池醸造(株)	●(株)グラビアジャパン	●(株)清水	●(株)第一エージェンシー	●(株)日本アクセス東北支社	●(株)ボイス仙台支社	●明治安田生命保険相互会社
●エイムカウフ(株)	●(株)国分東北(株)	●(株)伸電	●(株)だい久製麺	●日本酒類販売株式会社	●(株)ボーキ佐藤(株)仙台支店	●東北公法人部法・営業部
●江崎グリコ(株)	●(株)コスマジョバパン	●(株)JAかごしま茶業(株)	●(株)タイハク	●日本生活協同組合連合会	●(株)ボーキ佐藤燃料(株)	●(株)守屋青果物商店
●(株)エスティファイブ	●(株)コム	●(株)JTB印刷(株)	●(株)多田紙工	●日本労働者協同組合連合会	●(株)ボーリンセントーサくら	●(有)やない製麺
●SBSゼンソウ(株)	●有限責任事業組合コムワーク・プロジェクト	●(株)デイリーフーズ東北支店	●(株)ダック	●(株)東京海上日動火災保険(株)	●(株)松浦青果(株)	●(株)リネット東北
●大塚食品(株)	●スモリ工業(株)	●(株)ネスレ日本(株)北日本支社	●(株)ノダ	●(株)丸水配達	●マリッジパートナーズ(株)	●(株)流通サービス
	●(株)満月記					●六興電気(株)東北支店



2015年度下期

こ～ぶほっとわ～く助成金贈呈式

2016年3月5日（土）みやぎ生活協同組合



2

福祉団体・施設への支援

【ふれあい製品のお店「はあと」】

セラビ幸町店にあるお店「はあと」は、「仙台市障害者販売業務訓練等事業」の一貫として、福祉施設で作られた製品の展示・販売を行っています。

障がいのある方が販売・接客を通して一般就労に向けた経験を積み、社会体験や人間関係など視野を広げる機会となっています。店舗の無償提供を継続し、延べ313人がボランティアとして協力しました。

【ありのまま舎会報折り込みボランティア】

難病患者・重度障がい者への理解を広める活動をしている社会福祉法人ありのまま舎が毎月発行している会報「自立」の折り込み作業に、延べ69人が協力しました。

【こ～ぶほっとわ～く助成金2015年度助成】

35団体に9,798,500円の助成を行い、助成を始めた1992年からの助成累計は、延べ464団体95,885,450円になりました。

今まで… これからも。

こ～ぶほっとわ～く助成金

1992年にみやぎ生協創立10周年を記念して「こ～ぶほっとわ～く基金」を設立し、宮城県内で地域福祉活動の向上のために活動している団体や個人に年2回助成してきました。

2013年度より「こ～ぶほっとわ～く助成金」として生まれ変わり、地域福祉活動・調査研究・シンポジウム開催などを行っている県内の民間団体・ボランティアグループ・個人へ年2回、年間1,000万円を上限に助成を行っています。

こ～ぶほっとわ～く助成金助成団体一覧

特定非営利活動法人セミナーレ ほっぷ

宮城県腎臓病患者連絡協議会

子育てサポート 楽っこ

公益社団法人 大崎法人会

子育て支援サークル おひさまスマイル

特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ

ぼーだれすあーとくらぶBACせんだい

だっこアートの会

特定非営利活動法人 ワンファミリー仙台

特定非営利活動法人 おひさまくらぶ

こども未来フォーラム実行委員会

特定非営利活動法人 スマイル劇団

一般社団法人 かもみ～る

2015年度上期

助成数:13団体

助成金

2,598,500円

特定非営利活動法人 つばめっこ

子育てサポート楽っこ(らっこ)

特定非営利活動法人 泉里会ケアホームめぐみ めぐみ・キッズハウス

一般社団法人 TSUGUMI グループホームびねの森

特定非営利活動法人 宜理いちごっこ

日和なごみ会

生き活きサポート「はまライン」

NPO法人川崎町・学校サポートネットワーク

わくわくリズム

福祉サークル I 愛 (あいあい)

ARTSforHOPE(アーツフォーホープ)

工藤手話企画

NPO法人日本脳トレーニング協会

広済ゆめ・くらぶ

NPO法人アートワークショップすんぶちょう

仙台市ほほえみの会

NPO法人 おりざの家

一般社団法人かもみ～る(働く希舎かもみ～る)

NPO法人あなたの街の三河やさん

NPO法人ミューズの夢

せんだいかみすぎこども食堂(仮称)

名取こどもミュージカル実行委員会

2015年度下期

助成数:22団体

助成金

7,200,000円

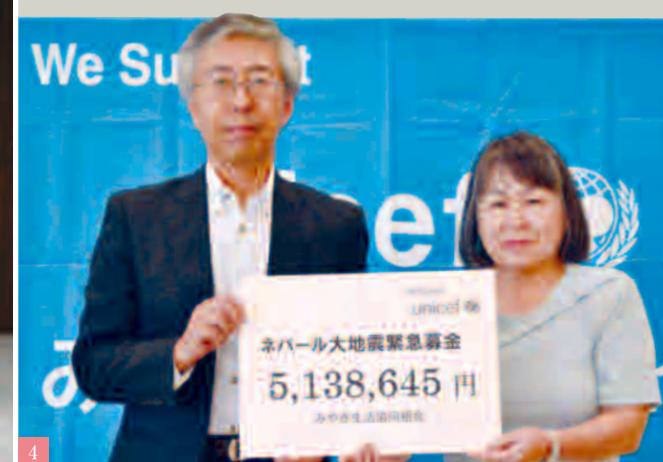
行政・他団体との協力

【首長・議員懇談会】

震災後の復興や被災者支援・地域福祉などについて首長や議員と懇談し、意見を交換する場として毎年開催しています。2015年度は「誰もが安心してくらせるまちづくり」をテーマに27自治体の首長、7地域の県議・5地域の仙台市議との懇談会を開催し、メンバー725人が参加しました。昨年度より大きく増え、関心の高さが伺えます。



3



4

1.2015年下期こ～ぶほっとわ～く助成金贈呈式 2.12月23日ハンド・イン・ハンド(街頭募金活動) 3.仙台市長懇談会 4.ネパール大地震緊急募金をユニセフ協会へ

【他団体やNPOとの連携】

被災者の暮らしを応援する活動を、行政、他団体、NPOなど、様々な団体と連携して進めました。

県北	気仙沼市社会福祉協議会、気仙沼NPO/NGO連絡会、青空エコカフェ
石巻	東松島復興協議会、コーネット事業連合、松島医療生協
仙南	名取市社会福祉協議会、名取市被災者支援連絡会、などり復興支援センターひより、岩沼市社会福祉協議会、岩沼市復興支援センタースマイル、岩沼市里の杜サポートセンター、亘理支えあいセンター「ほっと」、亘理町被災者支援課、山元町社会福祉協議会、やまもと復興応援センター、みやぎ県南医療生協、NPO法人住民互助福祉団体ささえ愛山元（愛広館）
仙塩	若林区復興の輪ミーティング、坂総合病院、一般社団法人パーソナルサポートセンター、仙台市社会福祉協議会、太白区家庭健康課、認知症の人と家族の会
全体	NPO法人応援のしっぽ、学都仙台コンソーシアム復興大学災害ボランティアステーション、宮城県行政書士会、NPO法人アスクイク

【災害募金・みやぎ生協震災復興・災害支援金等積立金からの拠出】

2015年9月に発生した台風18号の被害に対し、メンバーから寄せられた214万5,152円の募金を、宮城県・茨城県・栃木県の共同募金会へ届けました。また、災害支援の積立金より計250万円を茨城県・栃木県と県内3市の社会福祉協議会へ寄付しました。また、同じく9月の台風21号の被害に対し、同積立金より義援金100万円を沖縄県へ寄付しました。

【JA栗っことの協定】

2015年11月12日、みやぎ生協とJA栗っこグループは、事業・活動の連携と組合員の暮らしの向上を目的に、「協同組合間協同に関する基本協定」を締結しました。

国際社会への協力

【ネパール大地震緊急募金】

4月25日に起きたネパール大地震に対し、みやぎ生協では全事業所で5月1日から募金活動を開始しました。メンバーや職員から集められた総額約500万円は、ユニセフを通して被災地の緊急支援活動に役立てられました。

【ユニセフの取り組み】

開発途上国の子どもたちの命と健康を守り、子どもたちの未来を支えるユニセフ支援に取り組んでいます。店舗等での写真パネル展やハンド・イン・ハンド（募金活動）、対象商品を購入することでユニセフに協力するキャンペーン募金が積極的に行われました。



12月23日ハンド・イン・ハンド(街頭募金活動)

■ 2015年度ユニセフ募資金額

メンバーからの一般募金	6,299,255円
お取引先様キャンペーン募金	868,674円
牛乳パック回収による募金	3,453,624円
ペットボトルキャップ回収による募金	249,462円
ネパール大地震緊急募金	5,138,645円
合 計	16,009,660円

■ ユニセフ募金応援キャンペーンにご協力頂いたお取引先様

2015年度第1期(10～11月):41社、第2期(2～3月):39社（順不同、敬称略）

アサヒ飲料(株)、伊藤ハムディリー(株)、岩塚製菓(株)、江崎グリコ(株)、大塚食品(株)、花王カスタマーマーケティング(株)、カゴメ(株)、亀田製菓(株)、上山製紙(株)、銀河フーズ(株)、クラシエフーズ販売(株)、コカ・コーラライーストジャパン(株)、国分(株)、小山産業(株)、相模屋食料(株)、(株)サンエイ海苔、(株)シーテック仙都、シマダヤ(株)、昭和産業(株)、(株)スミフル、(株)仙水ディリー、太子食品工業(株)、滝沢ハム(株)、日清オイリオグループ(株)、日本ケロッグ(合)、日本水産(株)、日本製紙クリシア(株)、日本製粉(株)、日本ハム東販売(株)、ハウスウェルネスフーズ(株)、はごろもフーズ(株)、はたけなか製麺(株)、(株)不二家、ブリマハム(株)、フルタ製菓(株)、(株)ブルボン、マルコメ(株)、丸大食品(株)、三井農林(株)、(株)Mizkan、三菱アルミニウム(株)、(株)明治、モランボン(株)、森永製菓(株)、森永乳業(株)、(株)ヤクルト本社、ヤマサ醤油(株)、UCC上島珈琲(株)、UHA味覚糖(株)、雪印メグミルク(株)、ロッテ商事(株)

【様々な途上国支援】

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドの活動に協力し、書き損じハガキ、切手、CDなどを回収・換金して、4つの開発途上国の自立支援の活動と「みやぎ生協平和募金」に役立てています。

また、購入を通して参加できる身近な国際支援活動「フェアトレード」についてお知らせする「フェアトレードカフェ」を、2016年2月に開催しました。参加者による人気商品投票なども行い、この取り組みへの理解を広げることができました。

〈第5章〉

環境活動



かけがえのない自然・環境を未来に残していく
取り組みを進めています

【環境理念】

みやぎ生協は、メンバー（組合員）と職員の活動や事業における取り組みを通して
環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

【環境方針】

みやぎ生協は、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバーに供給していることを踏まえ、環境理念を基に環境保全活動を進め、事業者としての社会的な責任を果たします。

1. 「低炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」の3つの視点で、重点課題として以下の4項目をメンバーとともに取り組みます。
 - 1) 生協事業におけるCO₂の総量削減
省エネ機器、再生可能エネルギー、BDFなどの普及、拡大によるCO₂の総排出量での削減
 - 2) 事業からの廃棄物の削減・再資源化
事業及び家庭ごみの減量のための発生抑制、再利用、再生利用、熱回収などの推進
 - 3) 環境に配慮した地域社会の構築
市民（メンバー・生活者）、市民団体、自治体、行政などと環境に配慮した地域社会構築の推進
 - 4) 商品事業における環境配慮
みやぎ生協の産直品・地産地消商品、環境配慮商品の取り扱い強化
2. 環境に関する法規制及びみやぎ生協が受け入れを決めた要求事項（協定書など）を順守します。
3. 環境汚染の予防と自ら構築した環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。
4. 全職員及び業務委託先に教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

みやぎ生活協同組合 理事長 宮本 弘

◆環境に関する取り組みの詳細はこちらからご覧になれます。<http://www.miagi.coop/member/kankyou/>



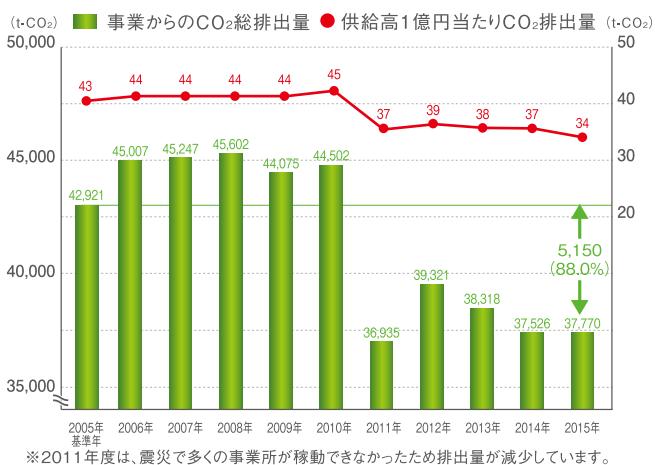
1.太陽光発電ソーラーパネル(鶴ヶ谷店) 2.風力発電事業(イメージ) 3.リサイクルセンターのSOVコージェネレーション発電機 4.岩手県野田村木質バイオマス発電所

低炭素社会の構築に向けて

【生協事業におけるCO₂の総量削減】

みやぎ生協は、省エネ機器の導入や省エネ運用によって事業におけるCO₂排出量削減に取り組んでいます。削減計画の基準年である2005年度の排出量から5,680トン(13.2%)以上削減する2015年度の目標に対して、5,150トン(12.0%)の削減でした。

また供給高1億円当たりのCO₂排出量は、2014年度の43トンから34トンに減りました。



【改装によるエコな店づくり】

2015年4月に移転増設した鶴ヶ谷店の売場面積は316坪から564坪に約8割増加しましたが、CO₂排出量は約4割以内の増加に抑えられました。これは高効率の空調機器、省エネタイプの冷凍・冷蔵機器を導入したことや、太陽光発電(30kW、自家消費)を設置したことの成果です。

再生可能エネルギーの普及拡大

【SVOコージェネレーション発電機】

SVO(ストレート・ベジタブル・オイル:植物廃食油)を燃料としたコージェネレーション発電機を、全国で初めて導入しました。出力25kW、年間発電量予測は9万kWhで、一般家庭約25世帯分の年間使用量に相当します。これにより、CO₂を年間38トン削減できます。

【太陽光発電】

太陽光発電設備を新たに鶴ヶ谷店に設置し、合計15事業所、発電能力は530kWとなりました。年間発電量予測は55万kWhで、一般家庭約150世帯分の年間使用量に相当します。これにより、CO₂を年間233トン削減できます。

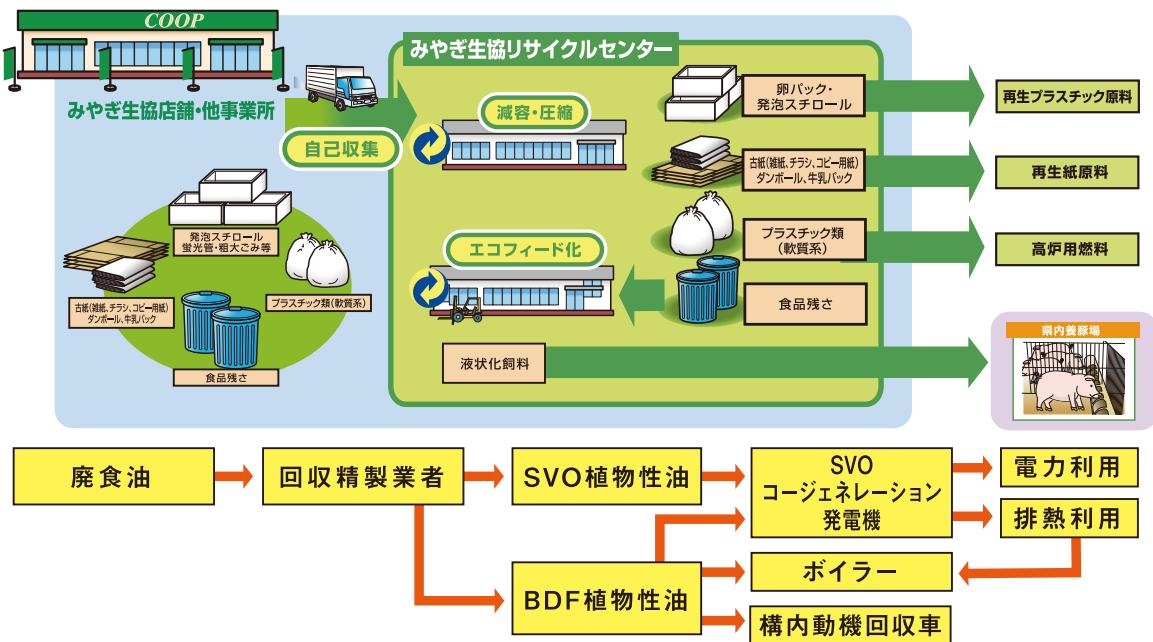
【木質バイオマス発電事業への出資参画】

岩手県野田村の木質バイオマス発電事業に、みやぎ生協も出資参画しました。発電規模は、出力14,000kW、年間総発電量は9,648万kWhで、一般家庭約2万6,800世帯の年間使用量に相当します。使用燃料は、未利用材、樹皮、剪定枝、パームヤシの種殻などで、年間40,811トンのCO₂が削減できます。2016年8月に稼働予定です。

【風力発電事業への出資参画】

みやぎ生協、いわて生協、コープあきたの3生協と3つの会社が「コープ東北グリーンエネルギー株式会社」に共同出資する形で風力発電事業を展開します。秋田県内の日本海沿岸に2,500kWの風車を3基建設し、2016年10月に運転開始の予定です。年間発電量(見込)は合計1,650万kWhで、約4,500世帯分の年間使用量に相当します。年間6,980トンのCO₂が削減されます。

みやぎ生協リサイクルセンターの全体フロー



廃棄物の削減・再資源化

【リサイクルセンターの取り組み】

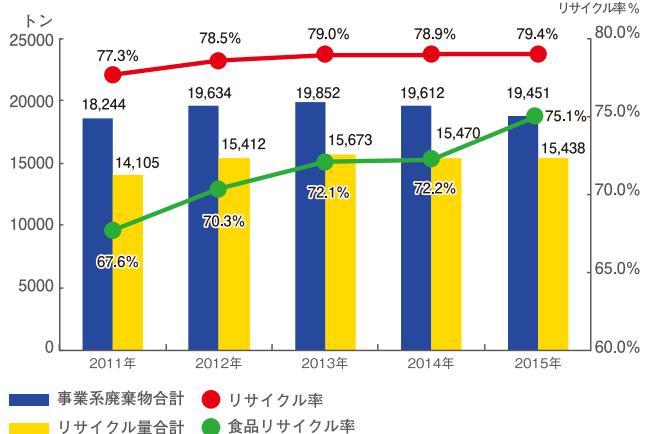
みやぎ生協リサイクルセンターは、みやぎ生協の事業所から出る廃棄物を自ら分別、収集、再資源化して環境負荷を低減するために2006年から稼動しています。

みやぎ生協の店舗などの事業所から回収した古紙、ダンボール、牛乳パック、発泡スチロール、卵パック、プラスチック類などをリサイクルセンターで減容・圧縮し、再資源化しています。

2014年にコンポスト方式(食品残さを堆肥化)からエコフィード方式(食品残さを乳酸発酵による液状飼料化)へ変更し電気使用量、CO₂排出量を削減しました。これは全国の生協では初めての取り組みです。店舗から出る野菜・果物、惣菜、寿司、日配の食品残さを回収し、液状化飼料にして県内外の養豚場に出荷しています。

これらの取り組みによって、2015年度のリサイクル率は79.4%に、食品リサイクル率は75.1%に向上了しました。

廃棄物量とリサイクル率、食品リサイクル率



【小型家電回収】

仙台市の「小型家電リサイクルモデル事業」に協力して、2015年6月から南光台店、桜ヶ丘店、新田東店、岩切店、南小泉店、六丁の目店の6店舗で小型家電の回収を始めました。小型家電の回収により、その中に含まれる有用金属をリサイクルし、資源を有効活用します。2015年6月から2016年3月までの回収量は、合計で1,807kgでした。



小型家電回収ボックス(桜ヶ丘店)

【家庭用使用済み 食用油(廃食油)回収の取り組み】

メンバーカーからの廃食油の回収店舗は、2015年2月から5店舗増え、仙台市内11店舗になりました。仙台市内で回収した廃食油の売却代は、全て「COOP緑の基金」に寄付しています。名取西店と加賀野店でも各自治体に協力して、廃食油を回収しています。2015年度の回収量は16,097ℓ、前年比138.8%と伸びています。

店舗の惣菜部門から出る業務用廃食油は回収業者に売却し、それを精製したBDF(バイオディーゼルフューエル)を購入して、共同購入の配達車両やリサイクルセンターのボイラーと重機などに活用しています。2015年度のCO₂削減効果は、42トンでした。



廃食油回収ボックス(南光台店)



1



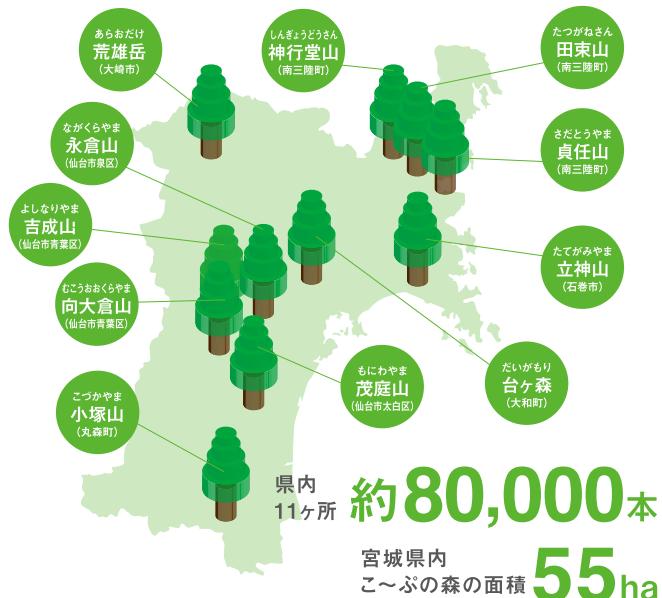
2

1.「こ～ぶの森吉成山」植林体験会 2.太子堂店での「親子ソーラーカーづくり」

メンバーの環境活動

【「こ～ぶの森」の活動】

宮城県内の緑と自然を豊かにするために、1992年から始まった“こ～ぶの森”的活動は、2015年に吉成山に新しい森が誕生し、県内11ヶ所に広がりました。「こ～ぶの森吉成山」は仙台市街地に近く、近隣の学校や地域の協力を得て4月に植林体験を行いました。メンバー、職員、協賛企業の方々など80人が参加し、広葉樹500本を植えました。2014年から吉成山に植えるドングリの苗をメンバーに育ててもらい、植林時に持参した苗も植えました。



【COOP緑の基金】への募金】

メンバーからの募金や協賛企業様からのキャンペーン募金のほかに、リサイクルの一環として行っているアルミ缶回収や廃食油回収売却収益金が「COOP緑の基金」になります。2015年度の募金総額は約783万円になりました。この基金は“こ～ぶの森”への植林・育林費用などに活用されます。

【家庭の省エネ、暮らしの見直し】

環境月間やつどいなどで省エネ学習会を18会場で開催し、356人が参加しました。地産地消が省エネにつながることをお知らせしながら、めぐみ野品を使った「省エネ料理教室」を8会場で実施しました。また、温暖化や気候変動が私たちの暮らしにどう影響するのかをテーマに学習を開催し、53人が参加しました。その他、エコドライブセミナーには17人が参加、親子ソーラーカーづくりには26人が参加するなど、体験しながら温暖化や省エネについて学ぶ機会をつくりました。

【環境月間の取り組み】

6月5日の「世界環境デー」にちなんで、6月を環境月間として事業とメンバー活動を連携させた環境保全の取り組みを行っています。2015年度は環境配慮商品の普及を重点テーマに、環境に配慮した商品コアノンロールやユニセフの「スマイルスクールプロジェクト」をお知らせしました。店舗での掲示や、ラクミー6月号など広報媒体も活用し、28エリアで取り組みを広げました。

【生物多様性を育む活動をひろげました】

2015年7月1日～8月31日、「水辺の観察と水質測定」を実施し、延べ277人が参加しました。宮城県内43地点で水質測定や五感を使った観察を行いました。

森林と生物多様性保全の大切さを実感するため、「こ～ぶの森向大倉山」をフィールドに春・秋の観察会を行い、37人が参加しました。夏休み親子企画「森と水辺の観察会in南三陸」には33人が参加し、森と水辺のつながりについて学び、被災地視察も行いました。

◆こ～ぶの森の活動についての詳細はこちらからご覧になれます。
<http://www.miagi.coop/member/kankyou/coop-woods/01.html>

◆みやぎの水辺ものがたりについての詳細はこちらからご覧になれます。
<http://www.miagi-mizube.com/>

商品事業における環境配慮

【環境配慮商品の普及拡大】

みやぎ生協は、「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」商品、地産地消商品、環境配慮商品の普及拡大に取り組んでいます。

コープ洗剤「ボルネオの緑をつなごうキャンペーン」

共同購入では毎年、コープ洗剤1点購入につき1円を寄付する「ボルネオの緑をつなごうキャンペーン」に日本生協連の呼びかけで取り組んでいます。2015年度は48,220円の寄付金になりました。



めぐみ野米の普及拡大

めぐみ野米は農薬・化学肥料の使用を宮城県の一般的な栽培の半分以下に抑えた環境配慮商品です。またカーボンフットプリント(CFP)商品でCO₂の排出量を表示しています。

CFP(カーボンフットプリント)



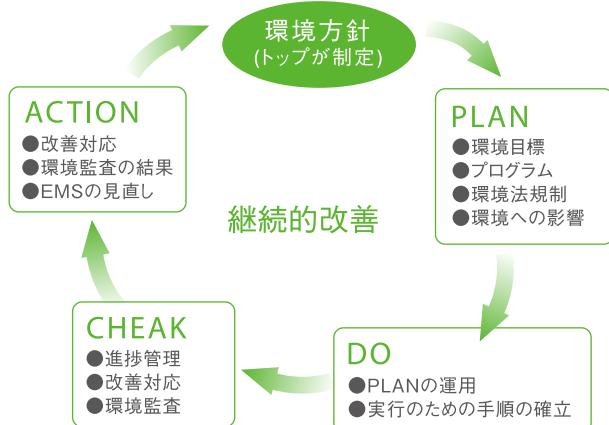
「めぐみ野」米
ひとめぼれ5kgでの
表示例

CFP(カーボンフットプリント)とは

商品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO₂に換算して、商品やサービスに分かりやすく表示する仕組み。LCA(ライフサイクル アセスメント)手法を活用し、環境負荷を定量的に算定します。

【環境マネジメントシステムの推進(PDCAサイクル)】

みやぎ生協は2013年度にISO14001を返上しましたが、「環境マネジメントシステム(EMS)」の継続は組織にとって有益として、継続運用を行なっています。



(環境配慮商品ラベル)

MEL(マリン・エコ・ラベル)	FSC(森林管理の原則と基準)
有機JAS	特別栽培農産物
MSC(持続可能な漁業のための原則と基準)	
レインフォレスト・アライアンス(認証商品)	
レインフォレスト・アライアンスとは <p>地球環境保全のため、熱帯雨林を維持する目的で1987年に設立された国際的な非営利団体です。地元のパートナー団体と共に農業の持続可能な基準を開発、推進しています。この認証商品は厳しい基準によって環境を保護し、労働者、家族、共同体全体の福利の発展をめざします。</p>	

【環境管理体制】



◆環境に関する取り組みの詳細は下記のURLからご覧ください。<http://www.miagi.coop/member/kankyou/>

外部環境監査、内部環境監査

【外部環境監査】

みやぎ生活協同組合
理事長 宮本 弘様

2016年4月16日

環境監査委員会
委員長 遠藤 智 栄
委 員 粟津 洋 子 高橋 誠 子
高橋 春 男 中田 俊 彦
福 田 幸 子 緑上 浩 子

当委員会は、みやぎ生協環境管理規定第14条、同環境監査規定第6条および第7条の規定に基づき、みやぎ生協の環境管理および環境保全活動について、以下の通り環境監査を実施したので報告する。

【環境監査の実施日】

第1回 2015年11月21日 2015年度上期環境監査:書類監査、鶴ヶ谷店視察
第2回 2016年 4月16日 2015年度環境監査:書類監査および総合監査

【評価事項】

- 図や絵を使った概要図(みやぎ生協の環境活動)を作成し、生協の多様な環境活動の現状をわかりやすく表現し、メンバーや社会に伝えやすしたこと
- 生協事業におけるCO₂排出量削減の課題について、排出総量の評価に加え原単位指標による定性的評価をすることにより、類似の事業との比較が可能になったこと
- 廃食油をエネルギー源として活用するSVOコーチェネレーション発電機を全国に先駆けて導入し、製造メーカーとともに機器の性能特性などを検証していること
- 仙台市内にある国有林の分収造林契約による“こ～ぷの森”づくりを通して、学校や地域と積極的にかかわり、メンバーが参加しやすい環境学習の機会を提供したこと
- 環境配慮型の住まいに資する断熱ガラス、エコ給湯機等の普及を継続したこと
- 環境保全に関するこれまでの取り組みの蓄積に基づき作成された「2014年度環境活動のまとめ」が、環境省等が主催する第19回環境コミュニケーション大賞優良賞を受賞したこと

【指摘事項】

- 2015年のパリ協定や国連SDGsの理念に基づき、CO₂削減の中長期目標(マイルストーン)づくりをめざすこと
- 供給高以外の様々なCO₂排出原単位指標を設定し、環境性能の評価に活用すること
- 「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」に基づき、環境配慮型の事業所設計をめざすこと
- エネルギー効率を高めた快適な住まい方を実現するために、提案できるサービスを一層充実させること
- 目標が未達成の環境配慮商品については、引き続き目標達成をめざすこと
- 東北地方と同緯度の北欧などの先進事例を学習し、「環境活動のまとめ」の概要を英語版にしてホームページなどで公表すること

以上

【内部環境監査】

- 実施期間：2015年7月10日(金)～2015年8月31日(月)
○監査員：主任監査員1人、監査員23人。監査チーム2人1組で編成。
○監査所見：総数27件、要改善事項11件、+評価事項8件、適合評価だが監査員コメントが付記された事項8件

総合所見	(1) みやぎ生協の環境マネジメントシステムが適切に運用されている事を確認しました。更に実態に即したシステムの整備・運用を行なってください。 (2) 環境目的・目標の進捗と運用管理の状況 ① 環境目標は、環境管理計画及び進捗管理表等により実施状況が管理されており、有効に運用されていることを確認しました。 ② 業務課題を環境目標として設定し取り組んでおり、ISO認証返上後も継続して組織の中に EMS マネジメントシステムが維持されています。 (3) 順法事項と運用管理の状況 順法事項や運用管理は一部改善事項がありましたが、概ね適切に管理されていることを確認しました。 (4) 重点監査事項 環境法規制において 2015 年 4 月 1 日改正施行の「フロン排出抑制法」で義務付けられた簡易点検(自前点検)の所属長の理解状況は、法施行後 2 回の実施を経て手順どおり実施されていることを確認しました。
------	--

【環境会計】

- ◆環境保全の投資コスト額:2億8,182万円(前年4億7,772万円)
投資の主なものは、太陽光発電、LED照明、高効率冷凍機などの省エネ設備やCO₂自然冷媒冷凍機、SVOコーチェネレーション発電機の導入費
- ◆費用額:4億8,809万円(前年4億6,303万円)
油タンクの撤去等で公害防止コストを削減。省エネ機器を導入した改修工事や惣菜等回収費用が増加。
- ◆環境保全対策に伴う経済効果:2億3,385万円(前年1億8,441万円)
経済効果の主なものは、リサイクルによる再資源化物の売却収入
※()内は前年の数値、一部修正を行っています。
- ※環境関連の寄付・募金:合計1,598万円(前年1,467万円)

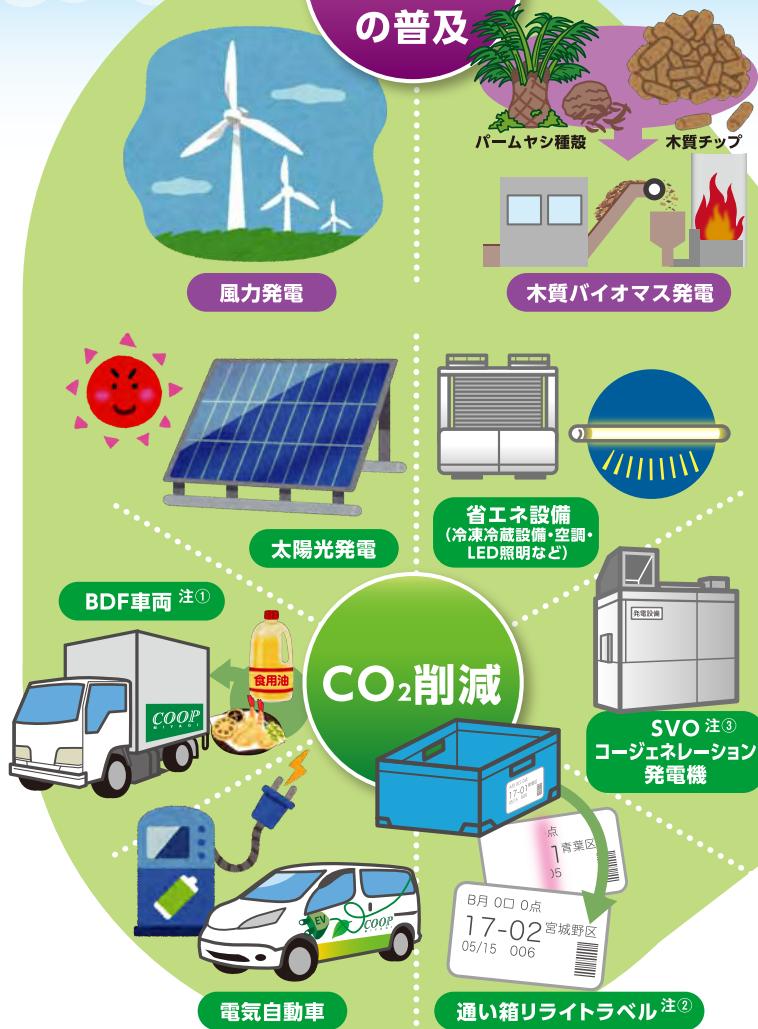
【環境に関する法規制とご意見】

- ◆環境に関する法規制28項目、その他7項目あり適切に管理を行ないました。
- ◆環境に関するお申し出0件、ご意見は18件でした。

主な項目	件 数
リサイクル等の事業について	9件
省エネ・省資源等について	3件
商品の容器・包装等について	3件
環境とサービス対応について	3件

みやぎ生協の環境活動

再生可能
エネルギー
の普及



環境に配慮した地域社会づくり

めぐみ野産地交流・体験会



水辺の観察と水質測定



こ～ぷの森づくり

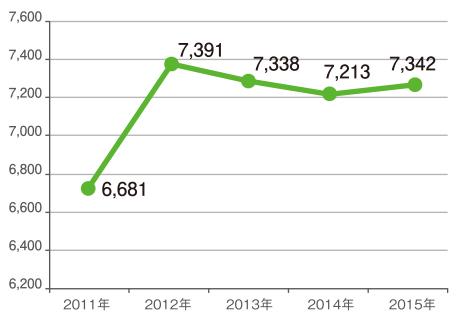


省エネくらしの 実験

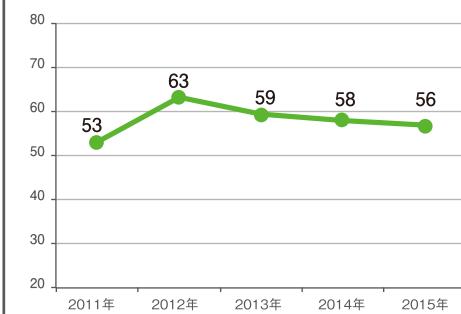


注①:BDF(バイオディーゼルフューエル):植物由来の廃食用油を化学処理して作られる軽油代替燃料のこと。
注②:通り箱リライトラベル:共同購入の通り箱のラベルを剥がさずに繰り返し印字できるシステム。

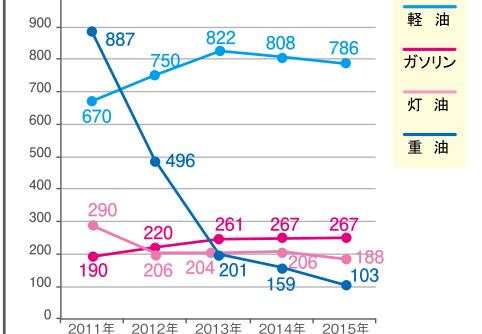
電気使用量 (単位:万kWh)



LPGと都市ガス使用量合計 (単位:万m³)



軽油・ガソリン・灯油・重油使用量 (単位:kL)



めぐみ商品 環境配慮商品の普及



※P38 の環境配慮商品をご参照下さい。



見直し活動



夏冷房28°C
冬暖房20°C

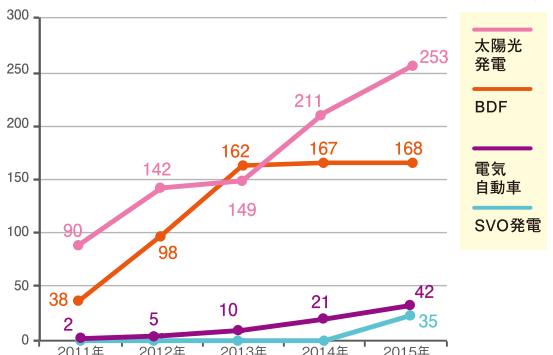
学習活動



注③:SVO(ストレートベジタブルオイル):植物由来の廃食油を物理的に処理して作られる軽油代替燃料のこと。

SVOコージェネレーション発電機:SVOを燃料にして電気と熱エネルギーを活用する設備。

化石燃料の代替エネルギー使用によるCO₂削減効果 (単位:t)



メンバーからの回収量の推移 (1) (単位:t)



古紙回収
ポイント
システム

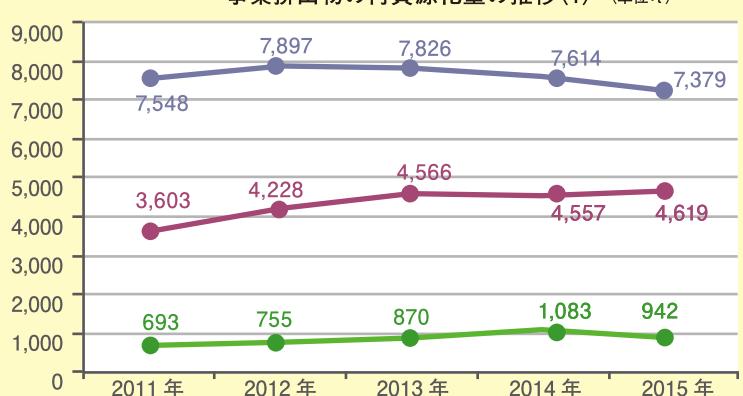
共同購入
チラシ

メンバーからの回収量の推移 (2) (単位:t)



ペットボトル
紙パック
トレー

事業排出物の再資源化量の推移 (1) (単位:t)



ダンボール
共同購入
チラシ
野菜・果物・
食品残渣

事業排出物の再資源化量の推移 (2) (単位:t)



おから (生産部)
粗大ゴミ+廢蛍光管
再生できる紙類



みやぎ生活協同組合

CSR Report 2015年度 社会・事業・環境活動についての報告書

発行日:2016年5月18日

発行:みやぎ生活協同組合

〒981-3194 宮城県仙台市泉区ハ乙女4-2-2

お問い合わせ先

○機関運営部広報課 TEL.022-771-1590 FAX.022-773-1821

○環境活動に関する詳細は環境管理室 TEL.022-771-2461

HPアドレス みやぎ生活協同組合 <http://www.miyagi.coop/>
本報告書はホームページに掲載、ダウンロードできます。

